

# Maetel Story 13

from GALAXY EXPRESS 999 with Love









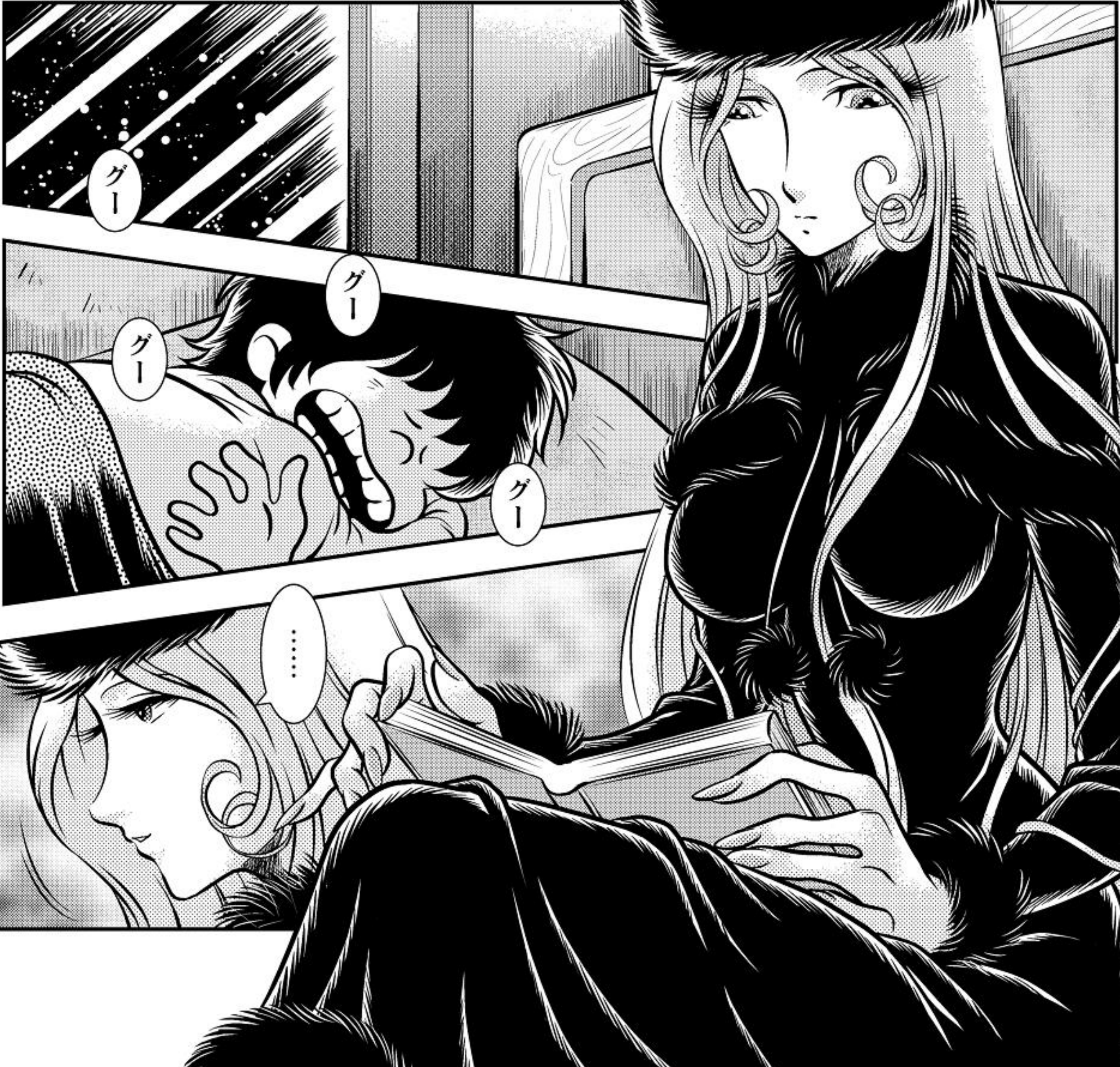


鉄郎：  
次の駅までは  
しばらくあるわ

駅に着いたら  
起こして  
あげるから…

ゆっくり  
休みなさい…

うん…



グー

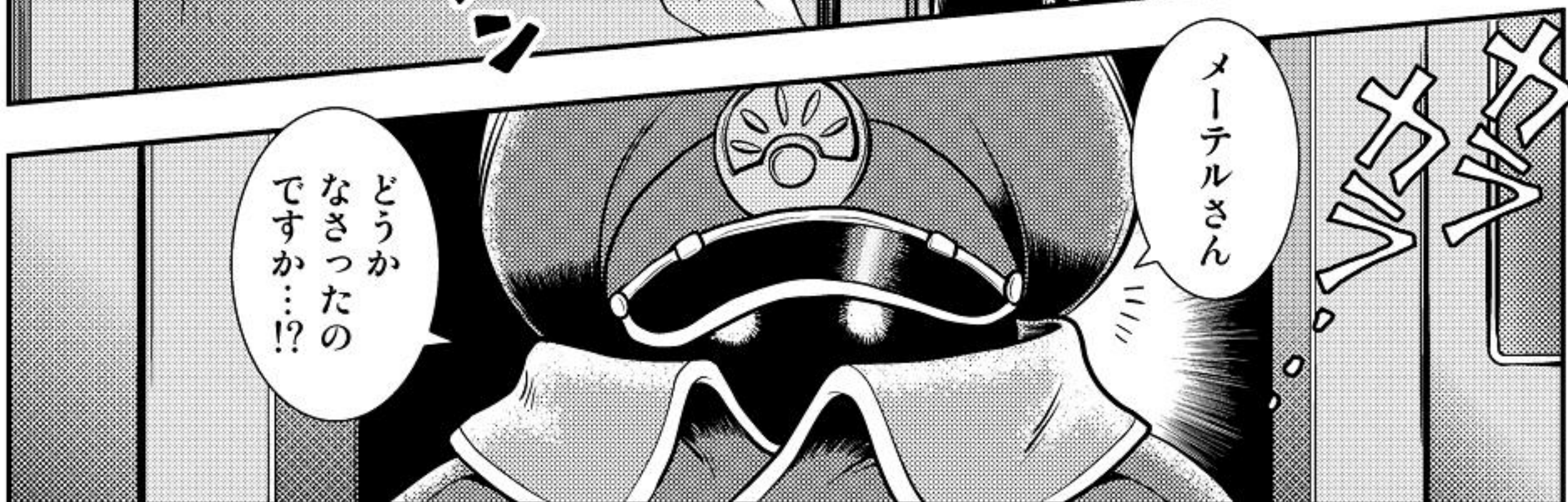
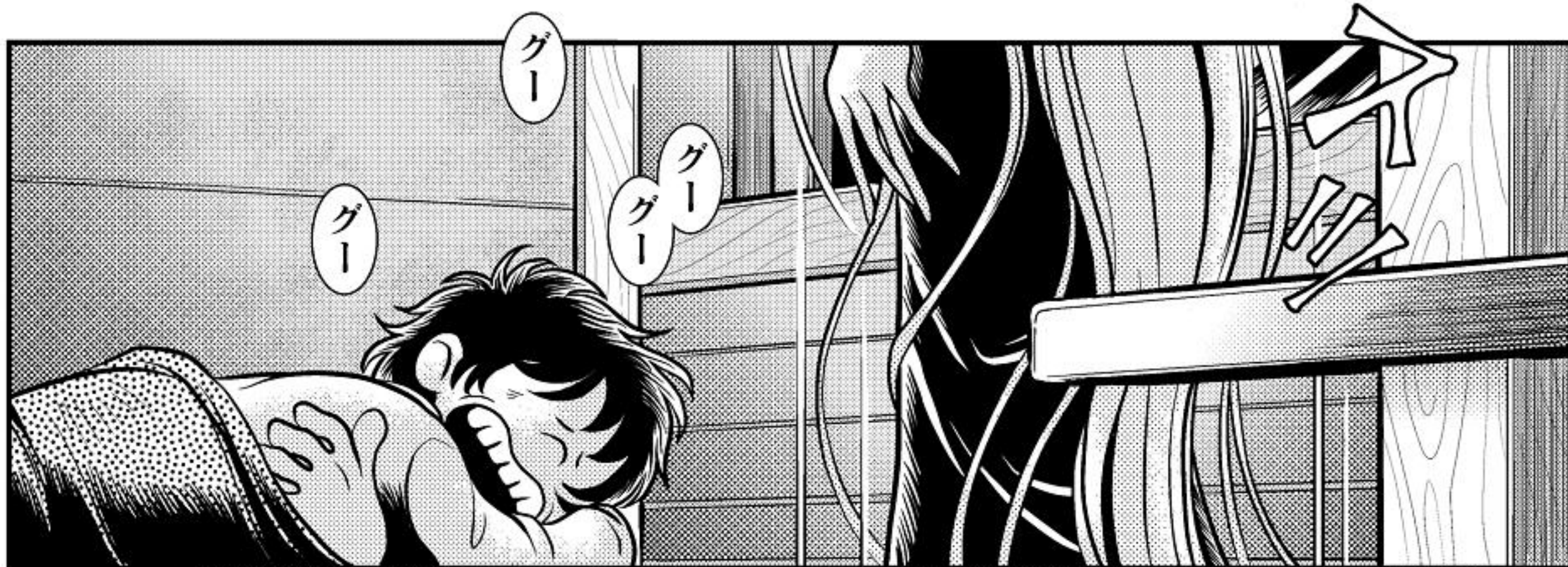
グー

グー

グー

……









車掌さん…

少し…  
いいかしら!?

メ  
メ  
メ

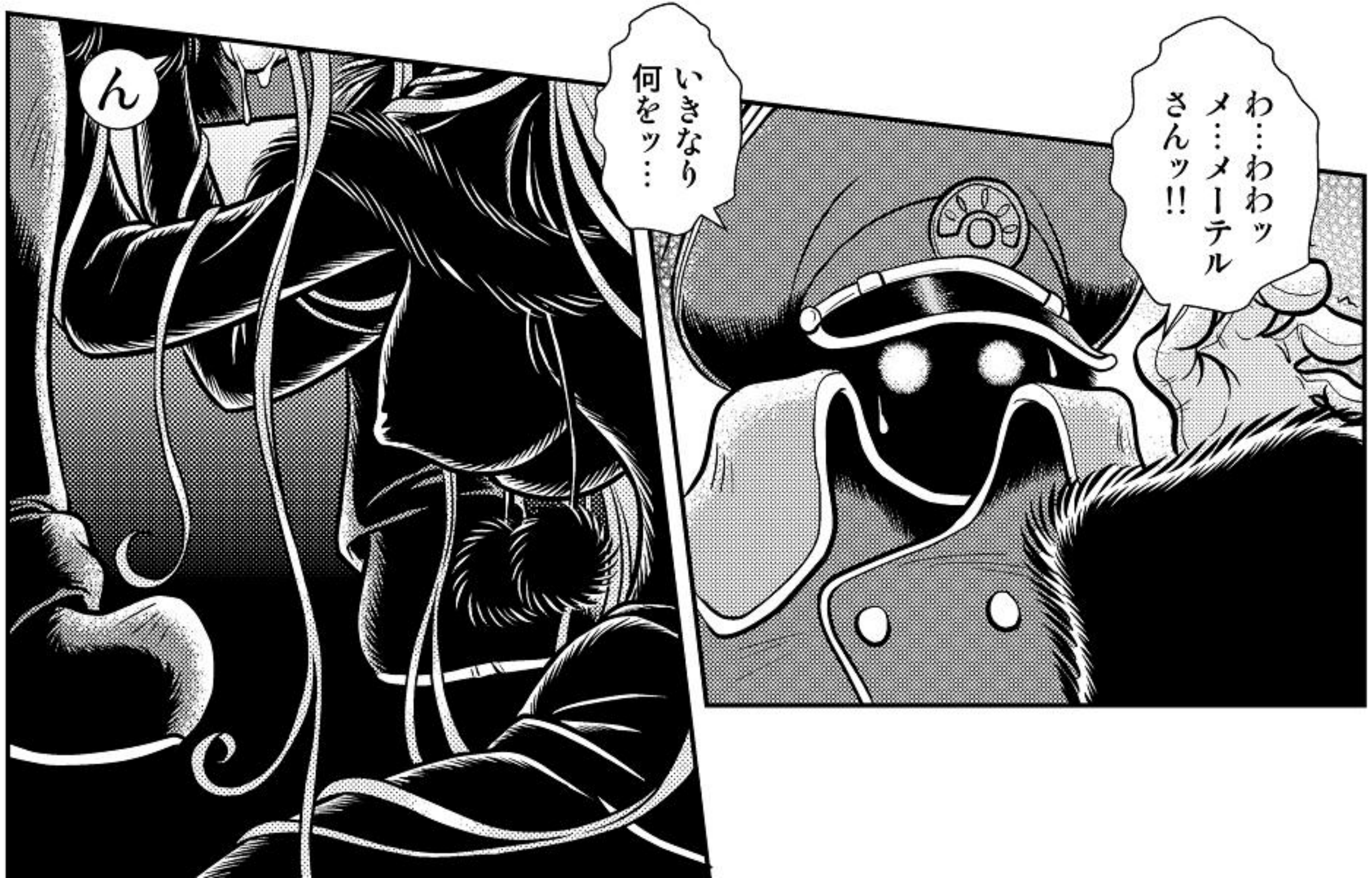


何か  
ご用ですか!?

ええ…  
お願いしたい  
ことがあるのよ…  
とりあえず中で…  
ゆっくり  
お話ししましょ…

車掌室

メ  
メ  
メ

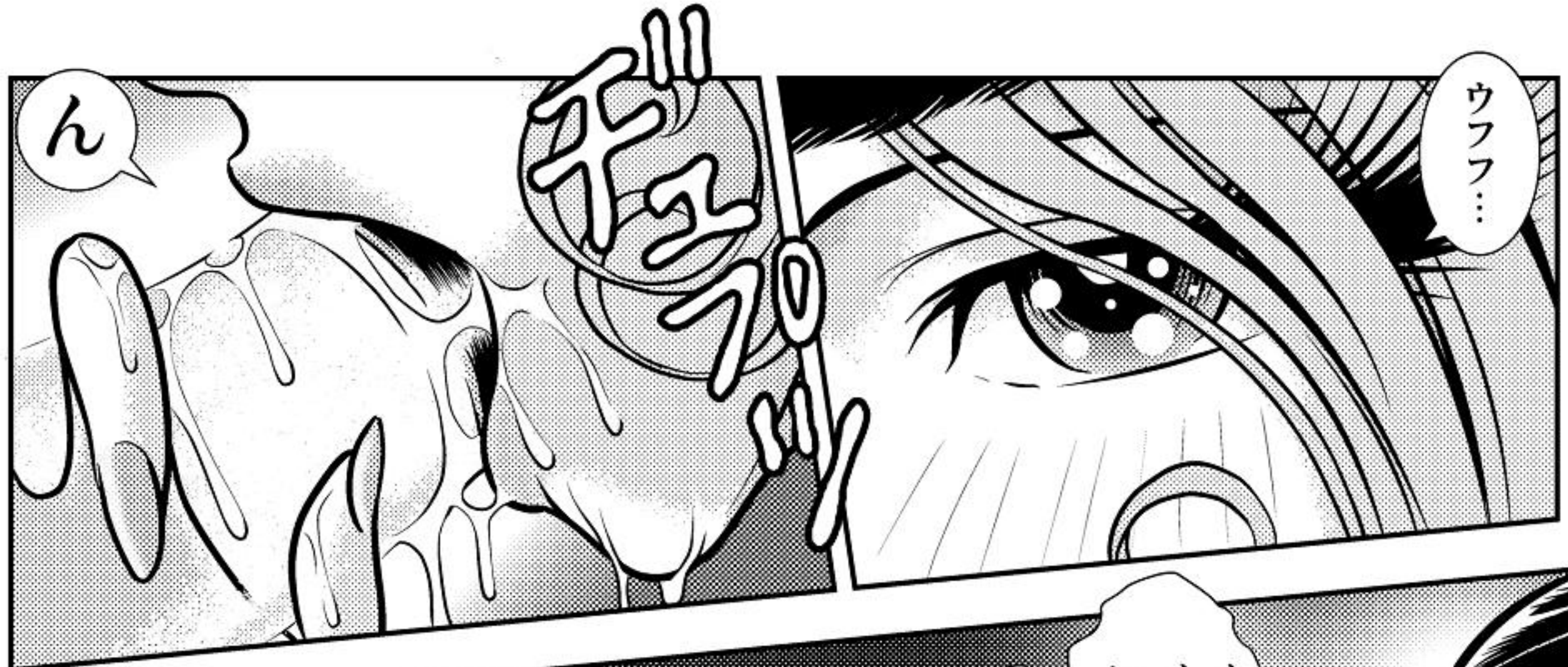


わ…わわッ  
メ…メーテル  
さんッ!!

いきなり  
何をッ…

ん





ウフフ...

ん

フェル



あわあわわ...

んん...

ほら...  
動かないで  
じっとしてて...

歯が当たっ  
ちやうわ...

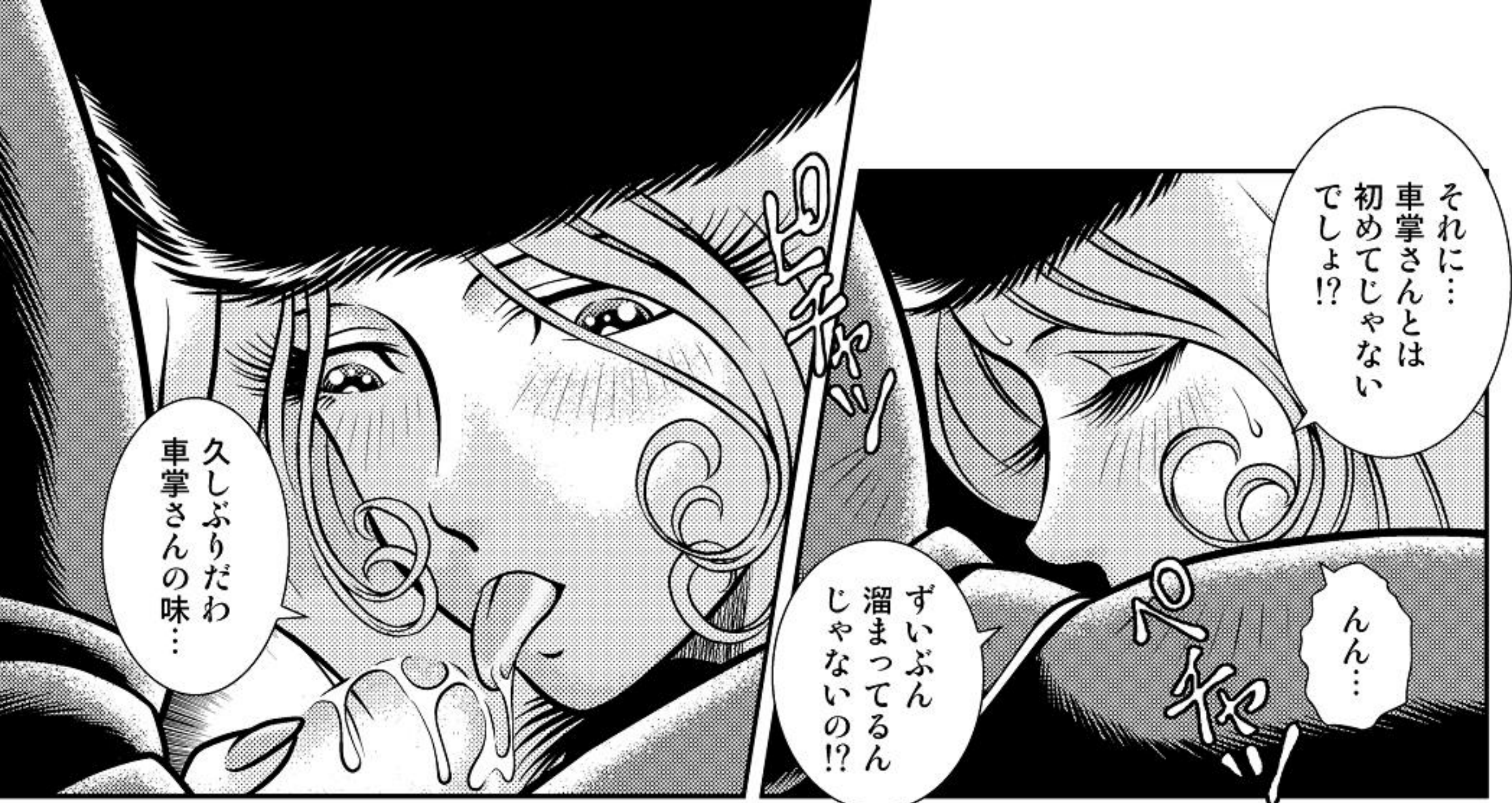
あーッ...

フェル

むぐ...

メ...  
メーテルさんッ  
いけません...  
こ...困ります...  
そ...それに...  
勤務中ですし...





それに…  
車掌さんとは  
初めてじゃない  
でしょ!?

んん…

ずいぶん  
溜まってるん  
じゃないの!?

久しぶりだわ  
車掌さんの味…



鉄郎とは違う  
大人の味…

そ…それは  
メーテルさんが  
お上手だから…

いえ…  
そうじゃなくて

そんな事  
いって  
すっかり  
固くなってるのが  
分かるわよ…

ウフフ…

あれはまだ  
メーテルさんが  
鉄郎さんと出会う  
前の話ですし…  
それに今は  
鉄郎さんが  
おいでになるでは  
ありませんか…



もちろん  
鉄郎の事は  
愛してるわ…

私は鉄郎に  
身も心も捧げた  
女ですもの…

アハ

アハ

でもたとえ身体を  
許しても心までは  
裏切ってはいないわ…





あわあわ：  
メーテルさん：



それに：  
私だって：

スルッ



たまには：  
違う料理を食べて  
みたくなるよときが  
あるのよ：

ウフフ：  
分かるでしょ：

さあ：  
車掌さん

鉄郎が目を覚まして  
起きてこないうちに  
たっぷりと：  
お願い：ね！！

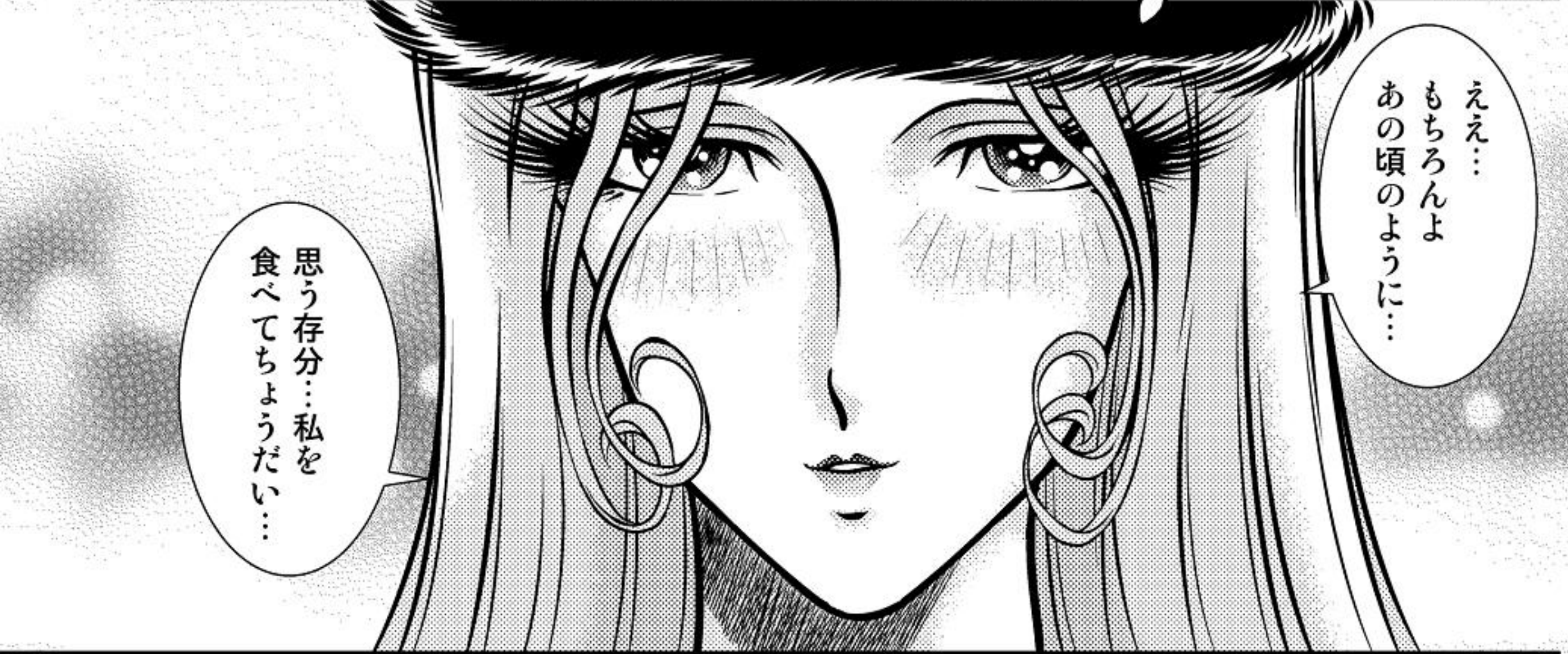
もう：  
こんなに濡れ  
てるの：





ほ…本当に  
よろしいんで!?

ゴ  
ゴ  
ゴ



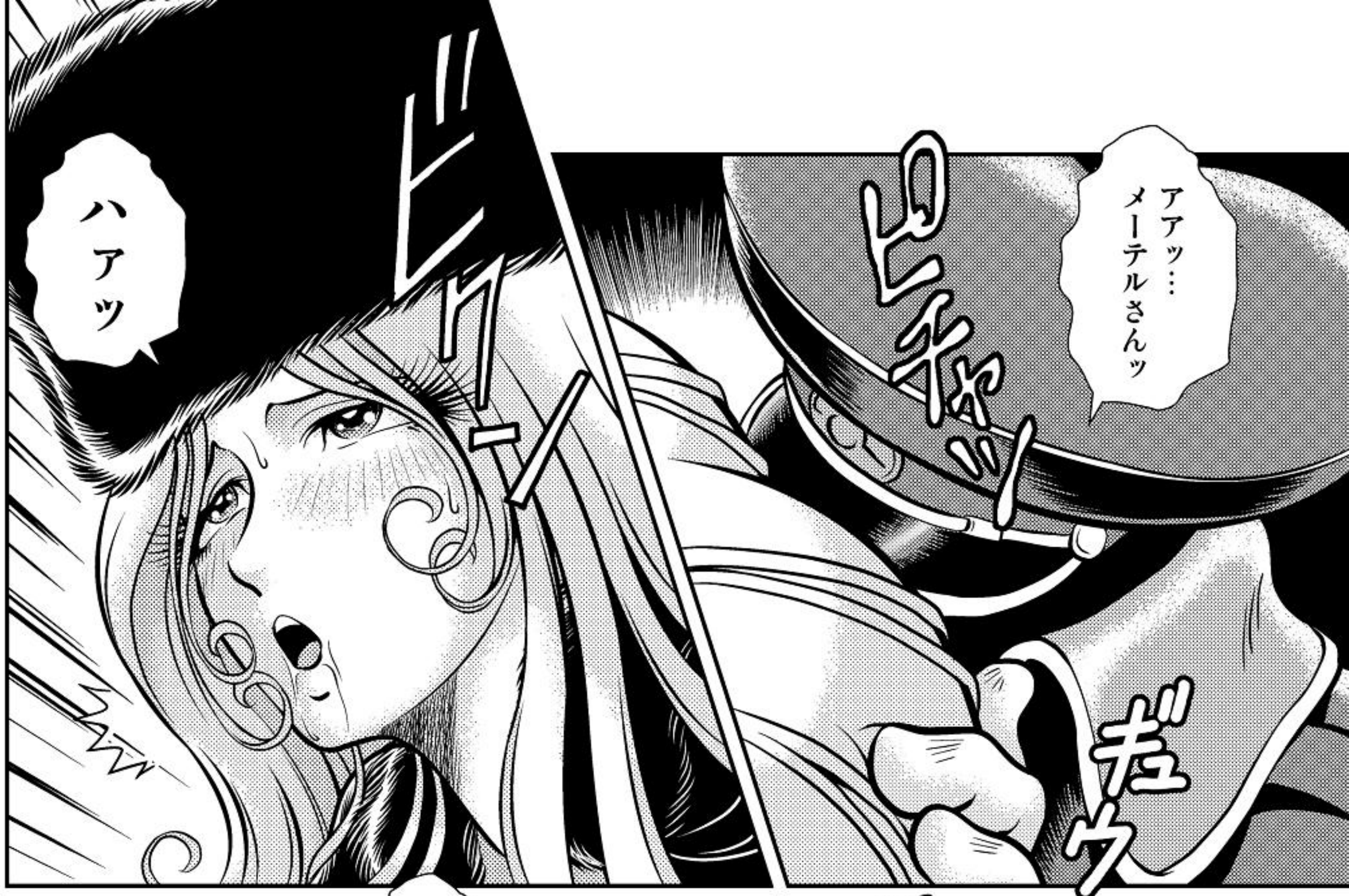
ええ…  
もちろんよ  
あの頃のように…

思う存分…私を  
食べてちょうだい…



さあ  
車掌さん  
来て…



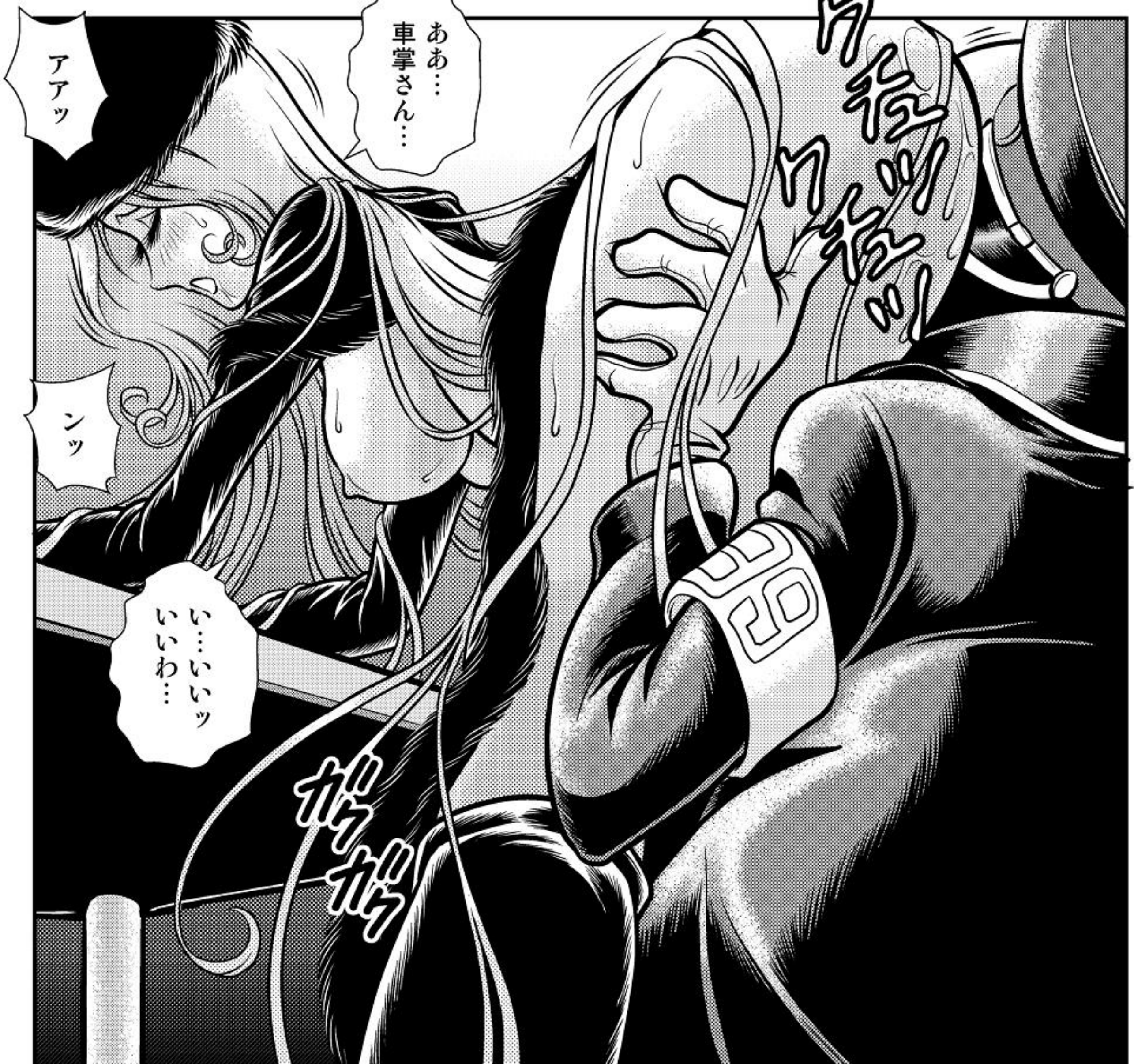


ハアツ

アアツ：  
メーテルさんツ

ドクドク

キウ



アアツ

ああ...  
車掌さん...

ンツ

いいわ...  
いいわ...

ドクドク

ドクドク



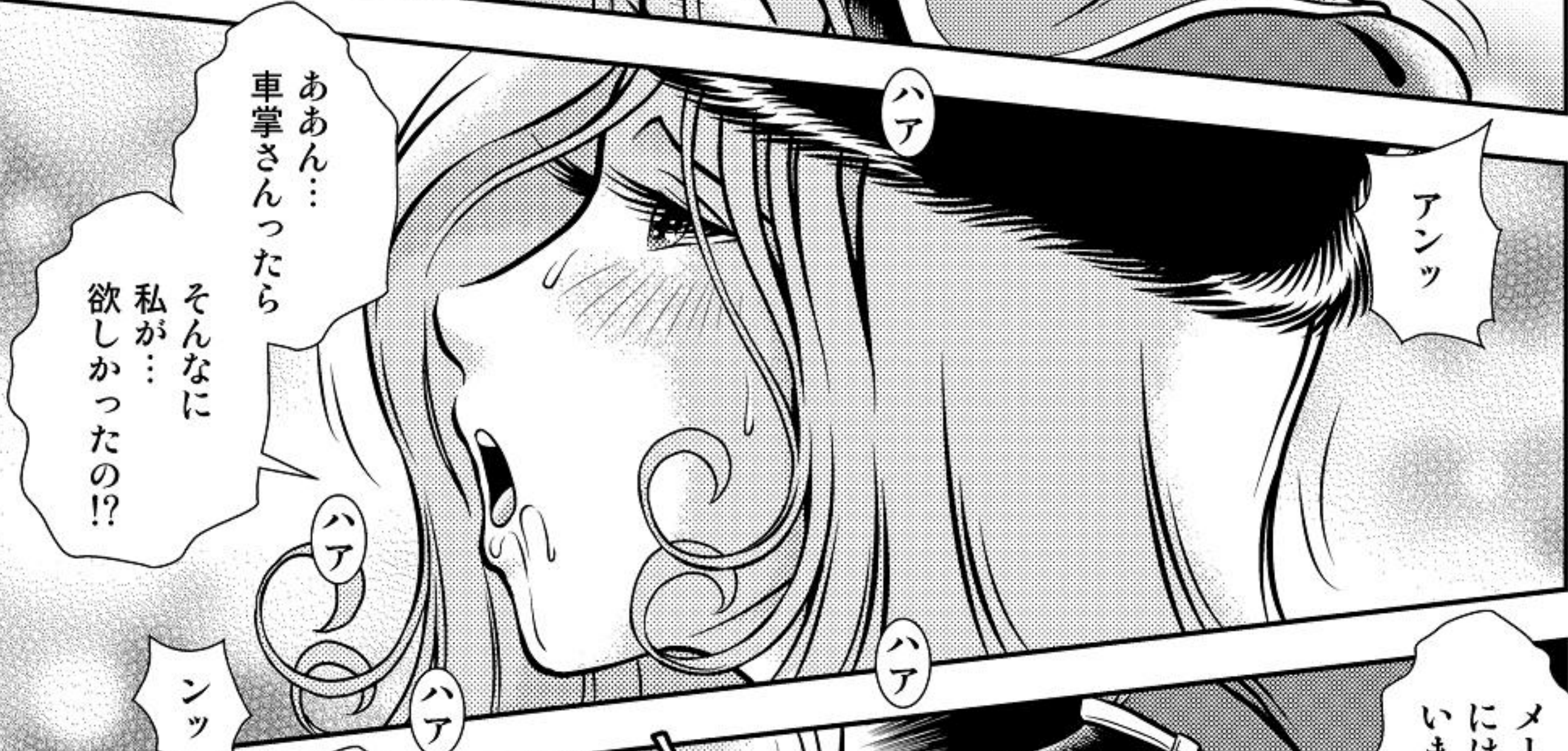


久しぶりに  
味わう…  
メーテルさんは  
格別ですハイ…

この身体を  
どれだけ  
待ち焦がれて  
いたことか…

ハア

アッ



アンツ

ああん…  
車掌さんったら

そんなに  
私が…  
欲しかったの!?

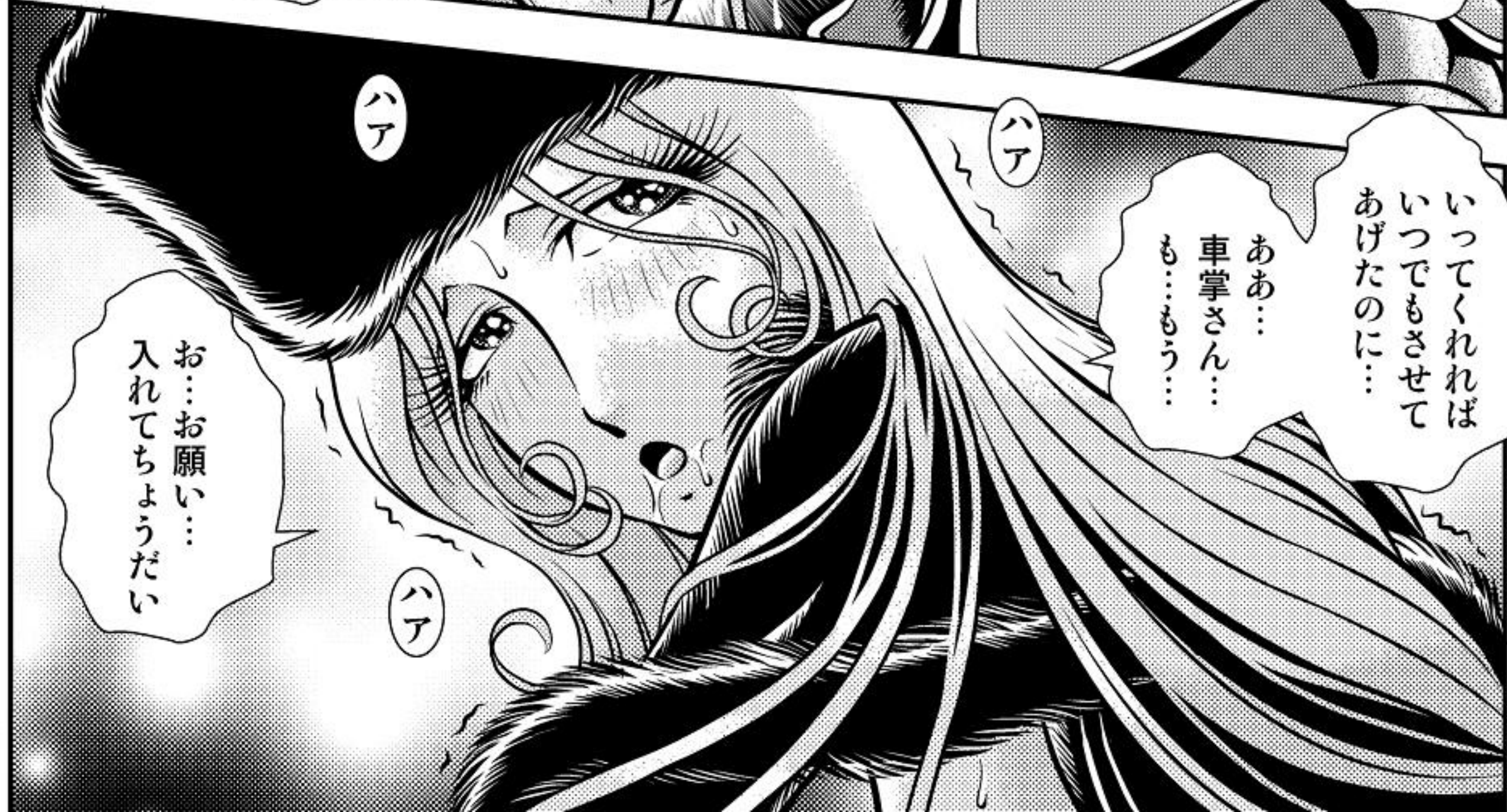
ハア

ンツ



メーテルさん  
には鉄郎さんが…  
いますし…

ああ…  
そんな…



いつてくれれば  
いつでもさせて  
あげたのに…

ああ…  
車掌さん…  
も…もう…

お…お願い…  
入れてちょうだい

ハア



ハア

早く…  
車掌さん

それでは…  
遠慮なく頂かせて  
もらいますです  
ハイ…

ハア

アアッ

アヒッ

ヒッ

ニンッ







アアッ  
車掌さんッ!!

ハア

アッ

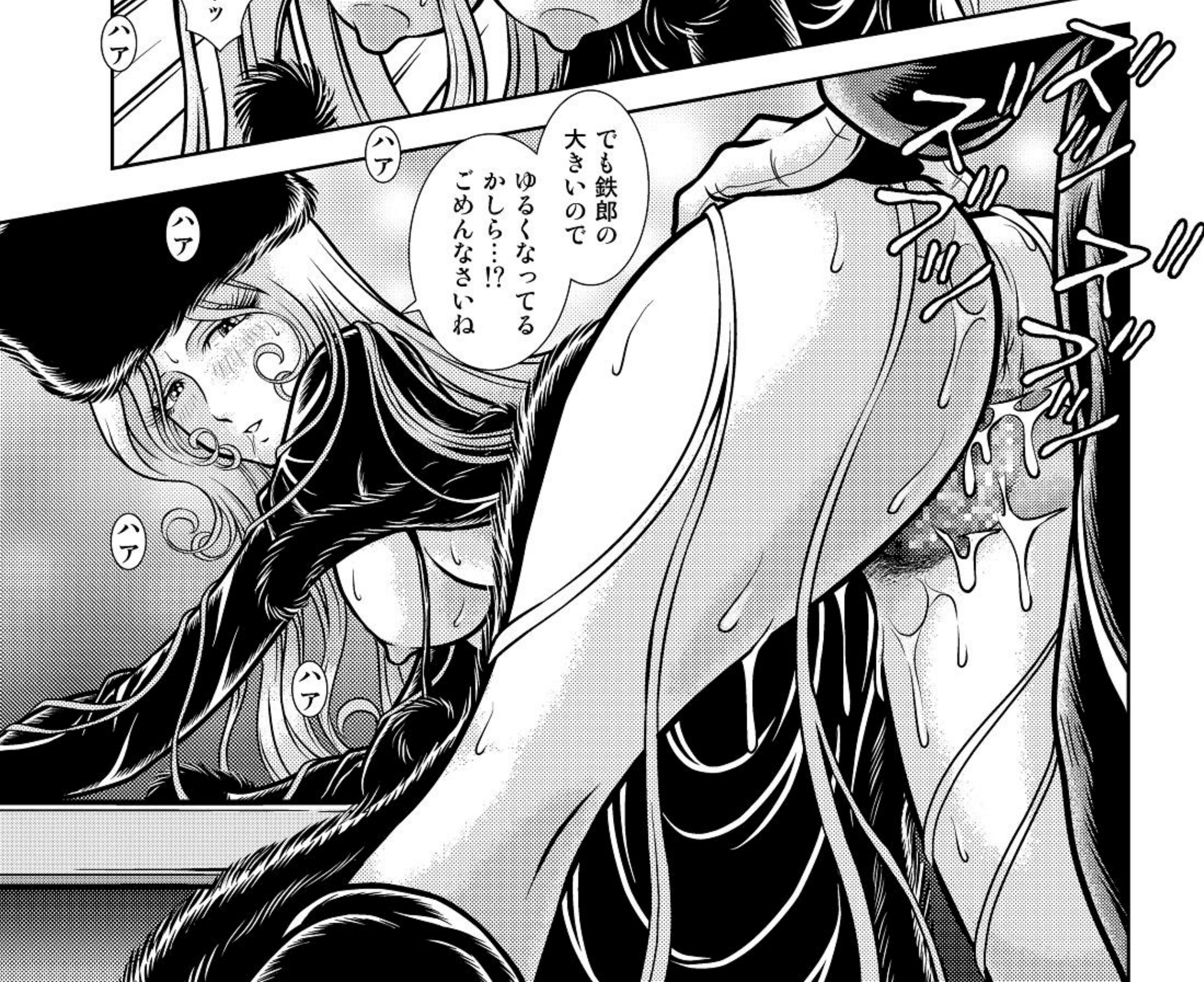
ハア

ハア  
ハア

アアッ

イイッ

ハア



でも鉄郎の  
大きいので

ゆるくなってる  
かしら...!?  
ごめんなさいね

ハア

ハア

ハア

ハア











いいわ…  
車掌さん  
出してッ

車掌さんの  
とびきり  
濃い精液を…

膣内に  
思いっきり  
出してッ!!…

たっぷり  
溜まってるん  
でしょ…

では…  
遠慮無く…  
出させていた  
だきますです  
ハイ…

ううッ…

メーテル  
さんッ!!

車掌さんッ

アアッ







メーテルさん...

ああ...  
精液...  
たっぷり...

お部屋を...  
汚してごめん  
なさいね

でも  
とつても...  
よかったわ...

車掌さん...

また...  
お願いね...

いつでも...  
喜んでさせて  
いただきますです...

ハ...ハイ...  
私でよろし  
ければ...





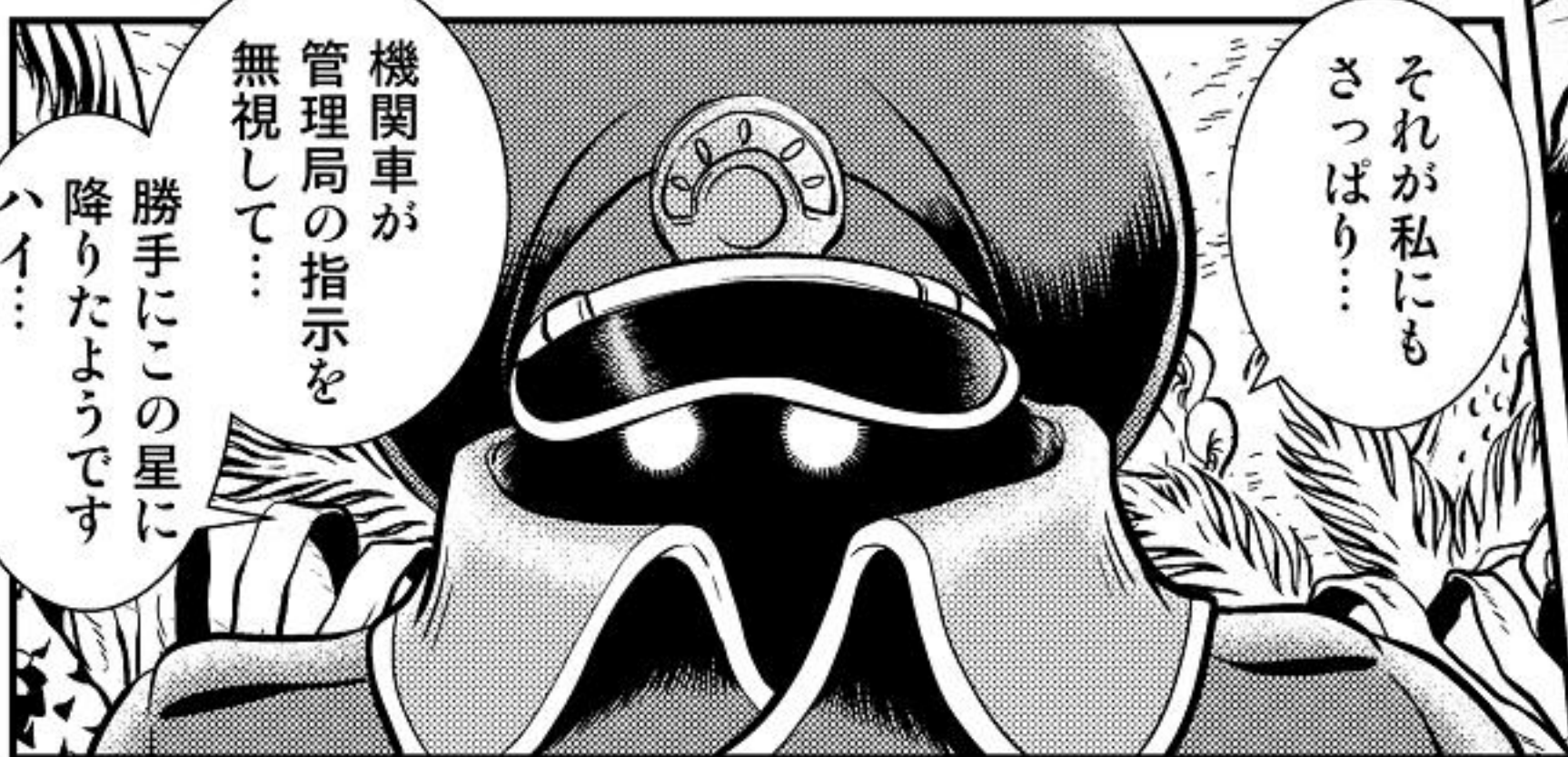
車掌さん!?



メーテルさん

どうしたの!?  
停車予定のない  
星に止まったり  
して…

何か  
あったの…!?



それが私にも  
さっぱり…

機関車が  
管理局の指示を  
無視して…

勝手にこの星に  
降りたようです  
ハイ…





機関車も  
機能を停止して  
原因を究明できない  
有様でして…ハイ…

それは  
変ね…

それよりも  
鉄郎を見なかつた  
かしら…!?

車内に  
いないのよ…

いえ…  
私はお見かけして  
おりませんです  
ハイ…

あの子  
まさか…



一人で…  
外へ歩いて  
行ったのかしら

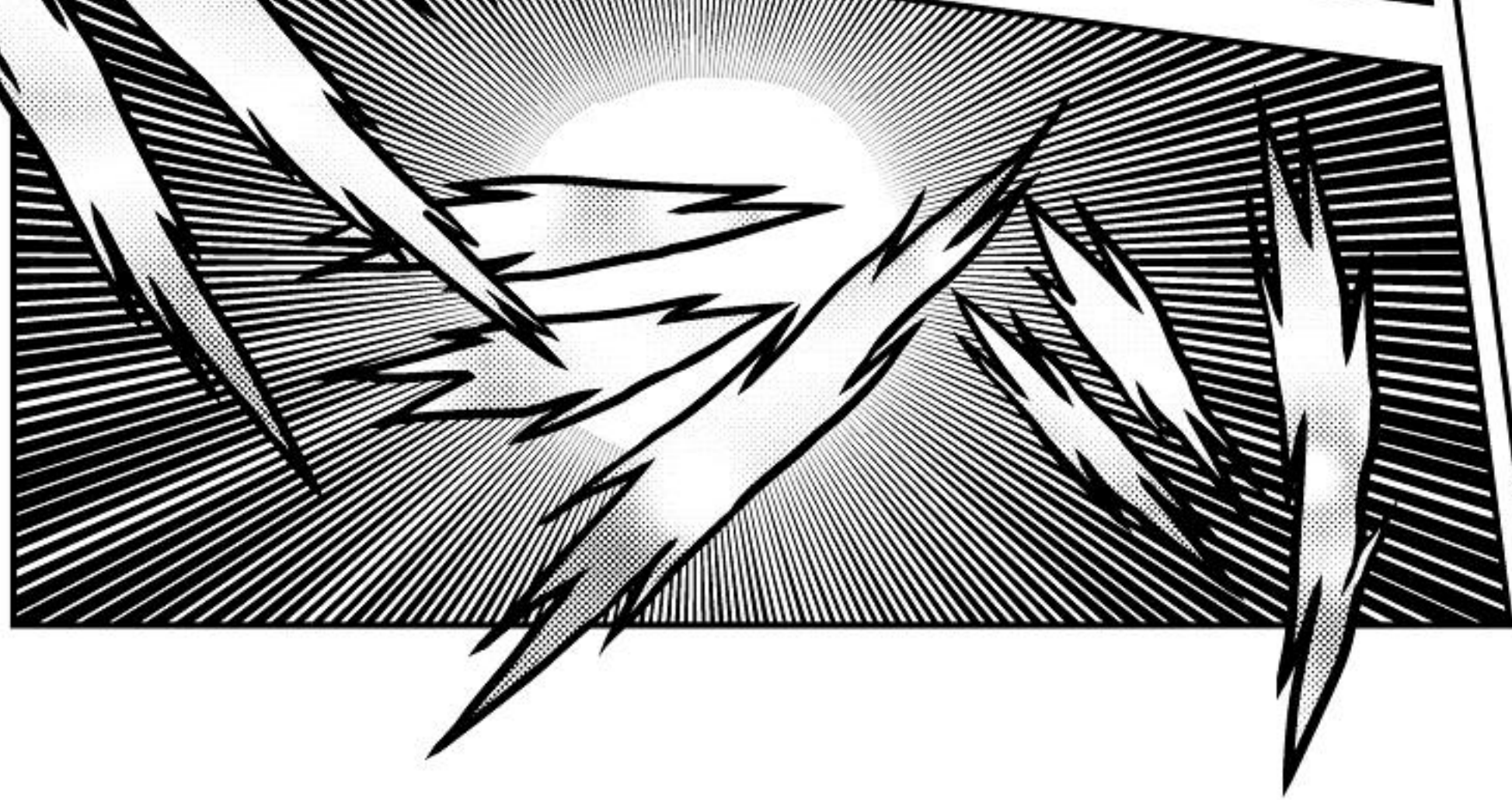
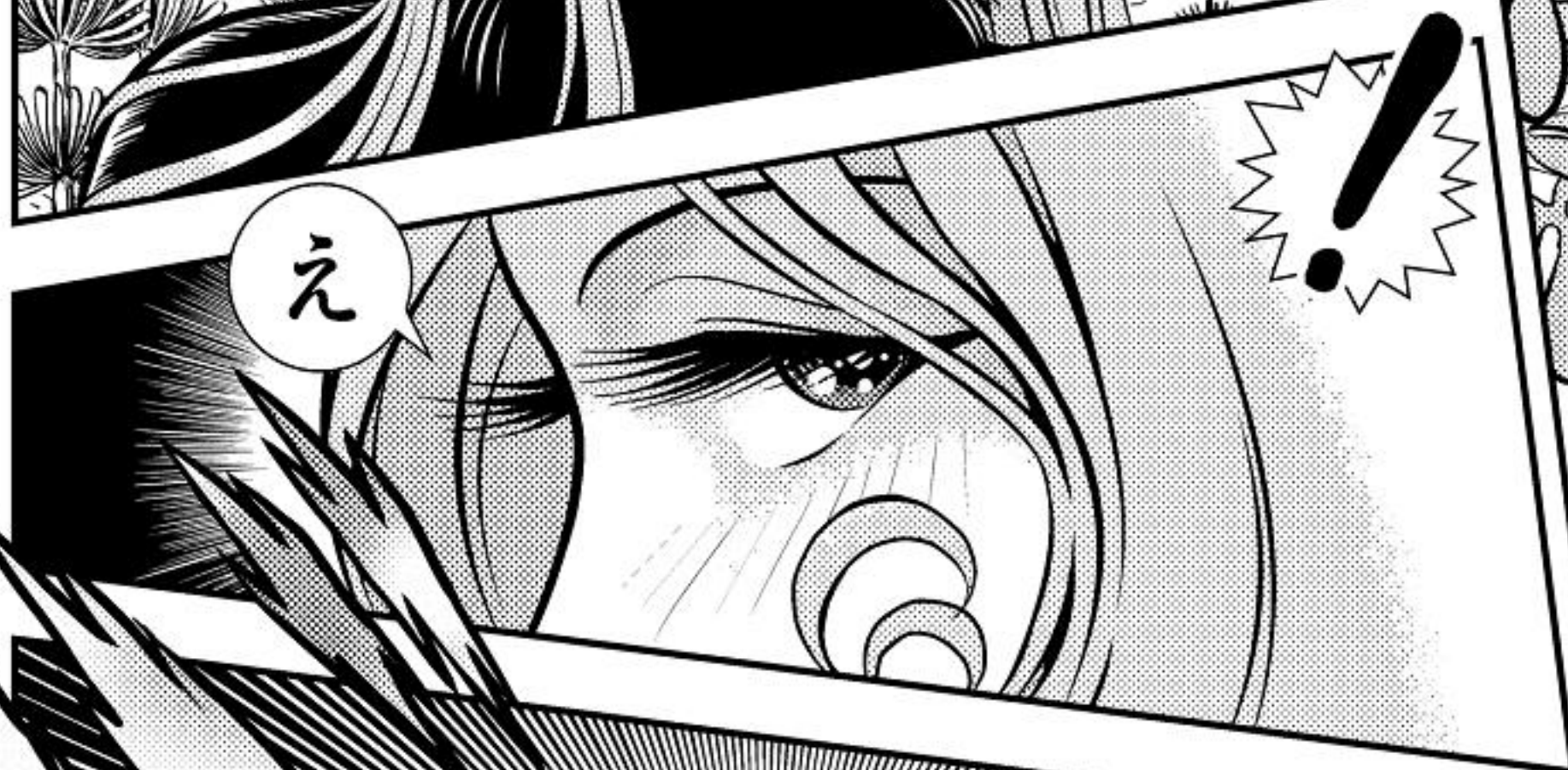
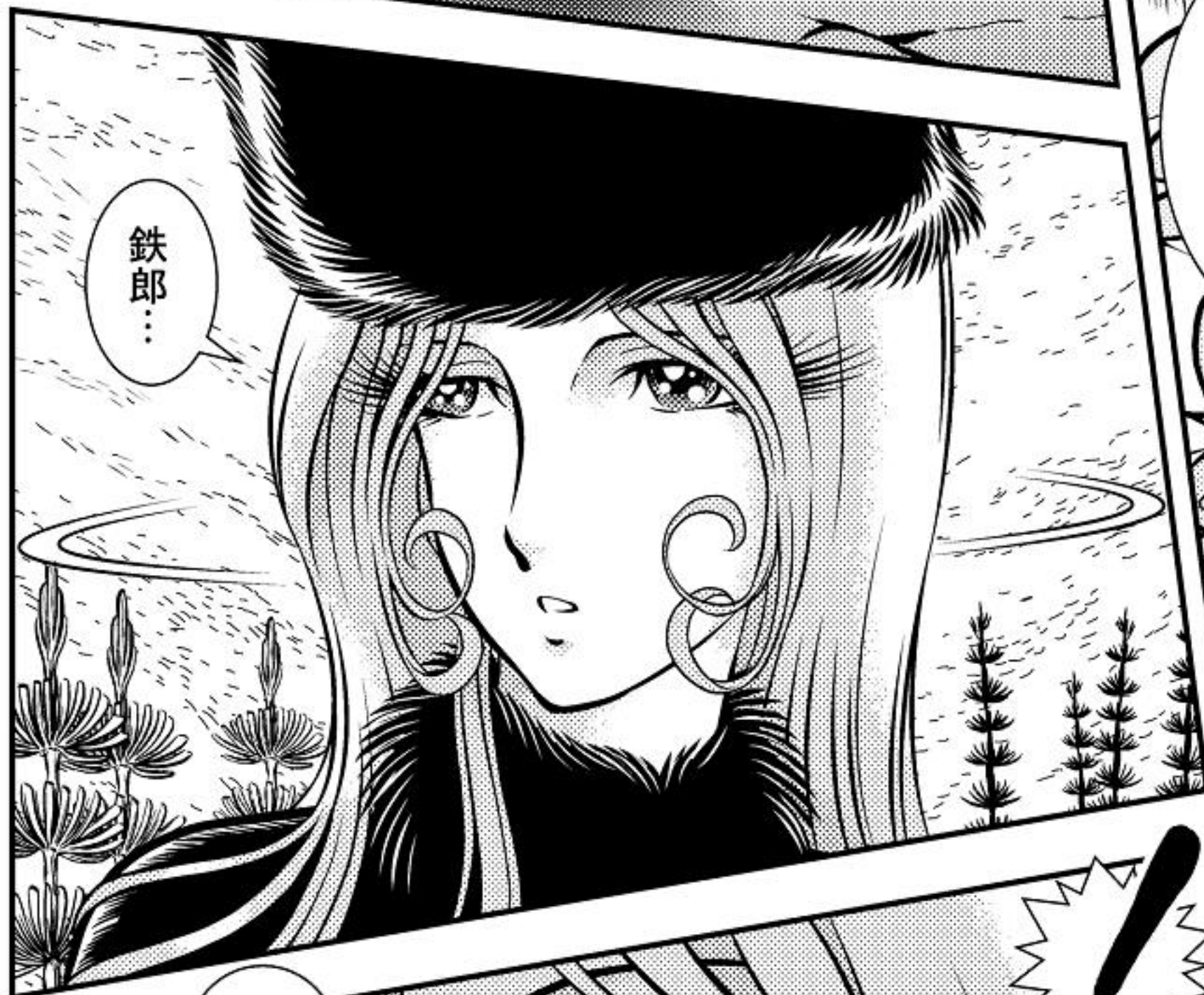
ホントに  
困った人ね…  
好奇心だけは人一倍  
旺盛なんだから…

ここが危険か  
どうか分からない  
というのに…

鉄郎さんなら  
考えられる  
事ですね…







私が探して  
きましようか!?

いいわ…  
私が連れ戻して  
くるから…

車掌さんは  
列車が止まった  
原因の究明を  
お願い…

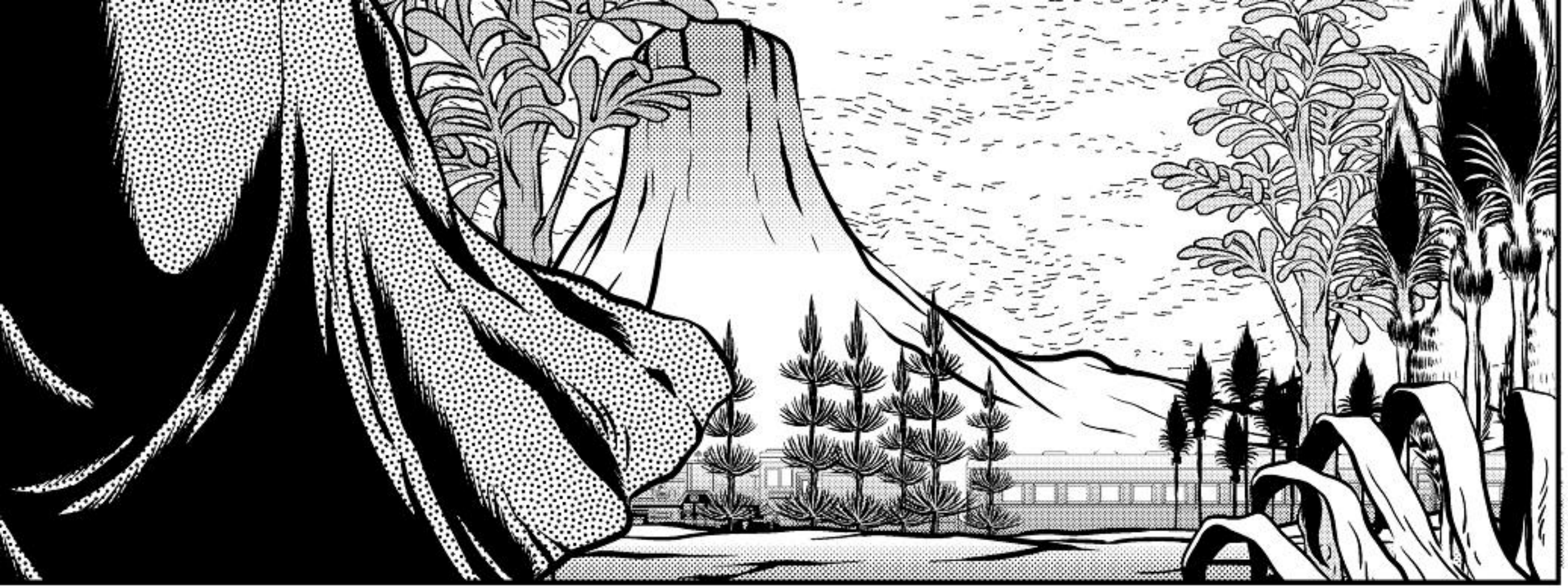
分かりました  
お氣をつけて  
メートルさん…

鉄郎…

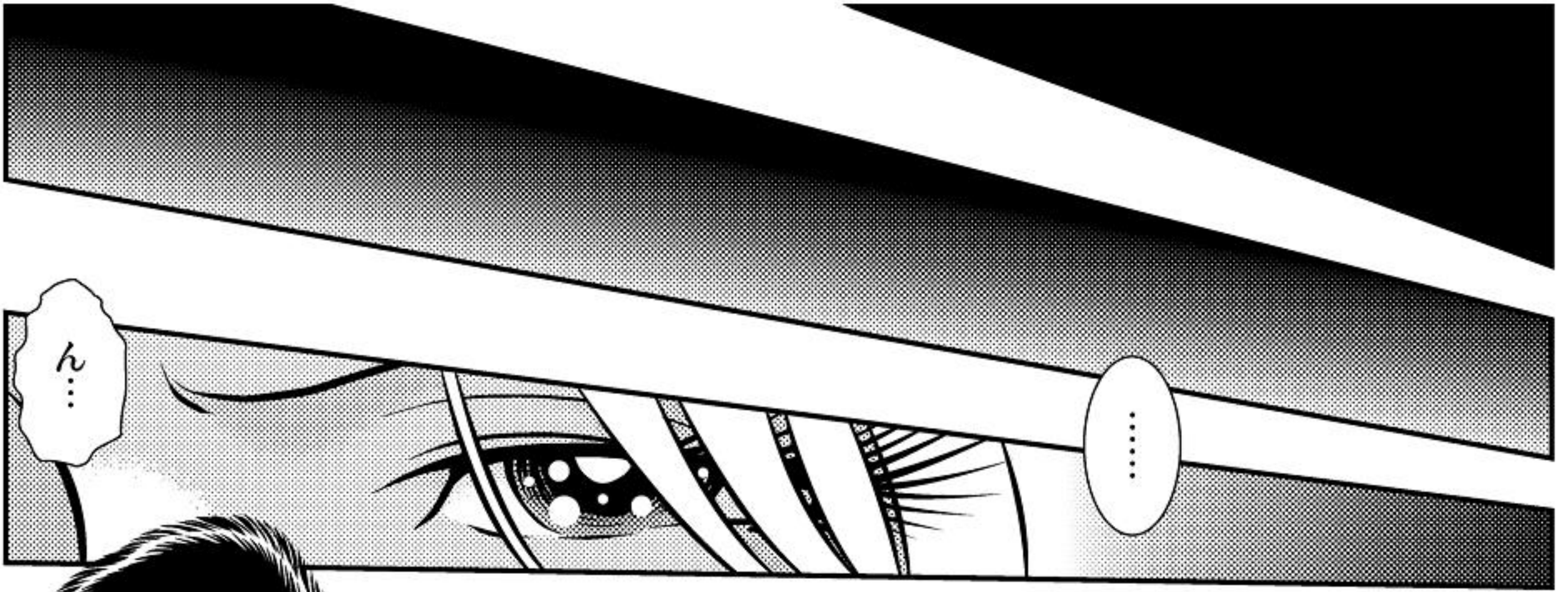
え



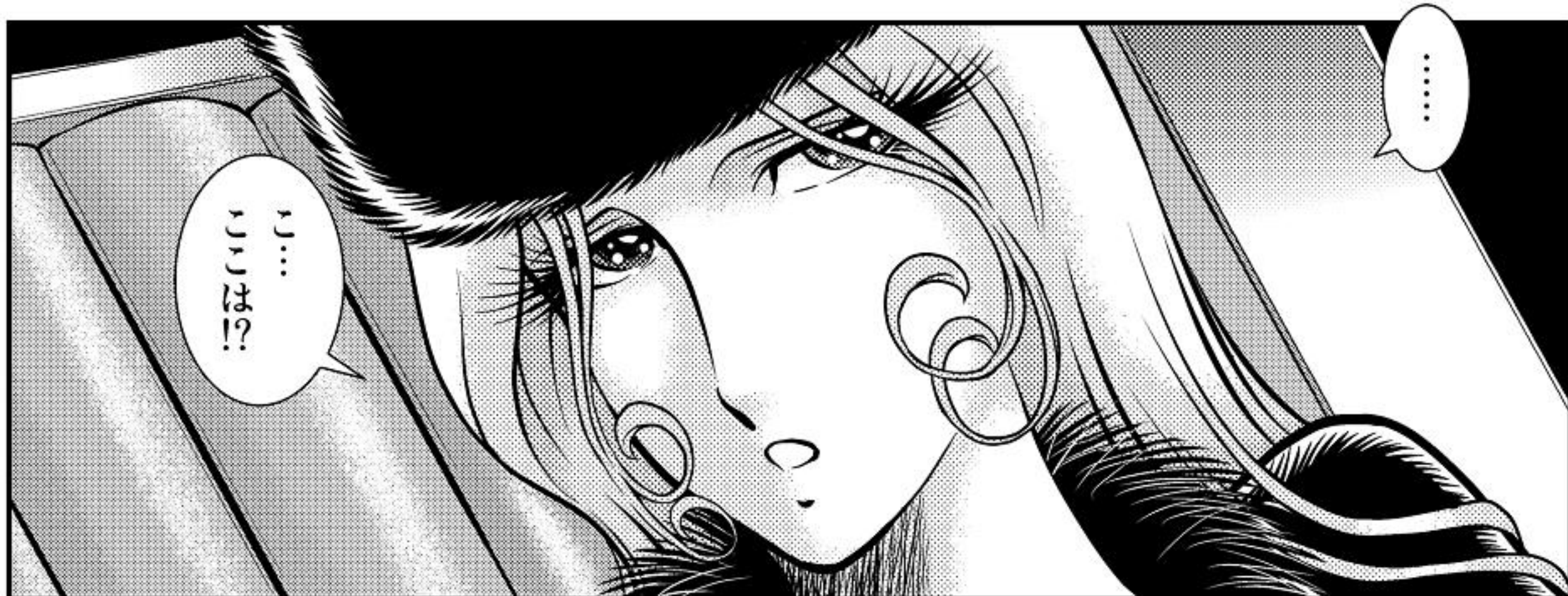














あなた達のため働く  
なんてまっぴら  
ごめんだわ…

すぐに私を放して  
鉄郎のもとへ  
帰しなさい…

フフフ…  
いつまで強がって  
いられるかな!?

君が気を失って  
いる間に薬を  
投与してある…

じきに  
身体が自由が  
きかなくなる

あ

そして我々の  
従順な牝奴隷に  
なるのだ…

カ  
チ



セット  
起動!!

まずは君の  
身体に刺激を  
与えて…

卵子を  
出来るだけ  
たくさん造って  
もらおう…

ンッ

ああ…  
や…やめて…

て…鉄郎…  
助けて…

アアッ

ヒイツ

ここは時空間が  
異なる次元の狭間…  
我々以外入る事は  
出来ない…

抵抗しても  
無駄だ…  
メーテル…

すぐに君は  
我々の子供を  
造るための  
牝になるのだ…



アツ

ああッ…  
や…やめて…  
やめなさいッ!!

アアーンッ

い…いやッ  
な…何を…  
何をするの…

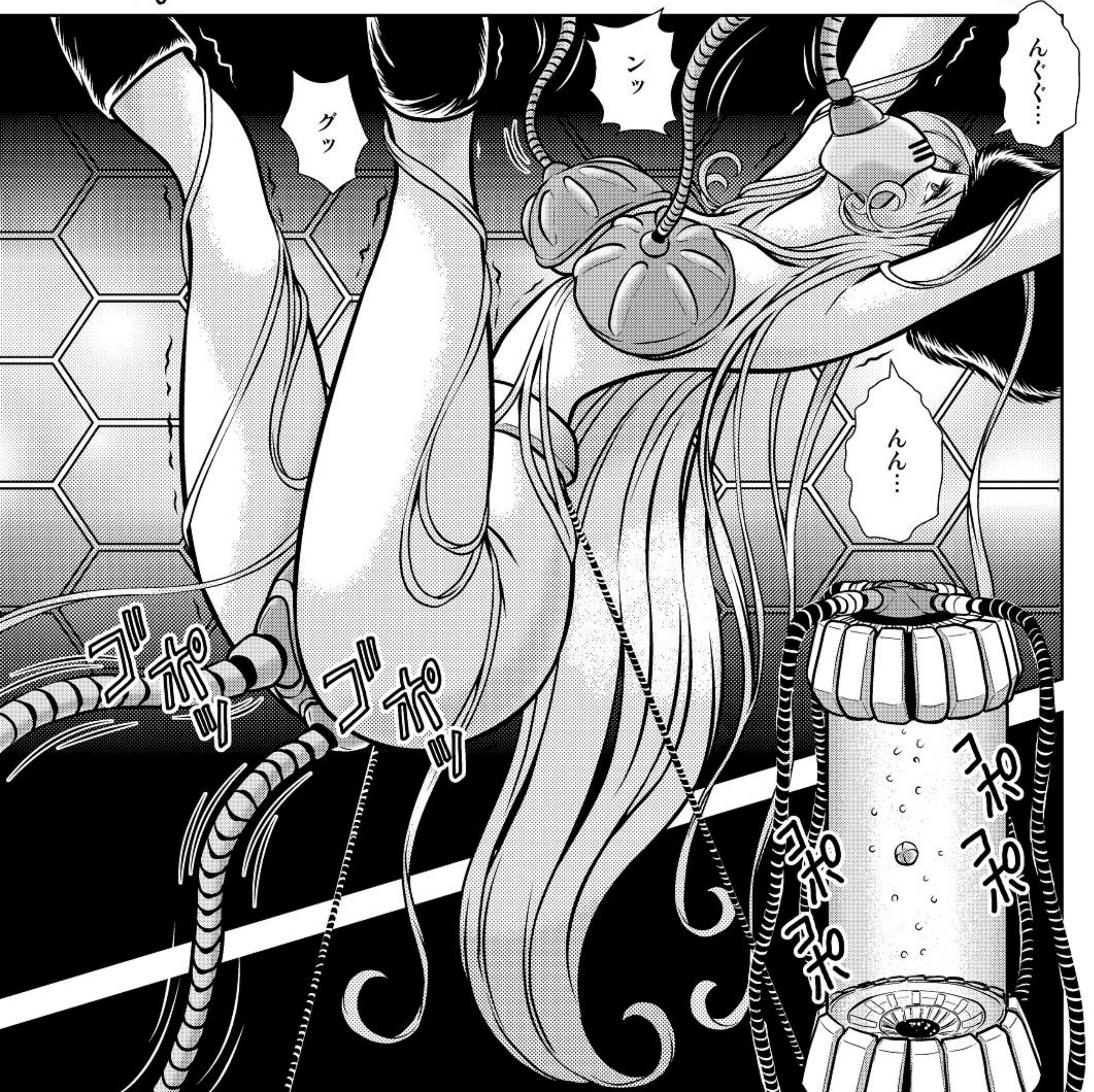
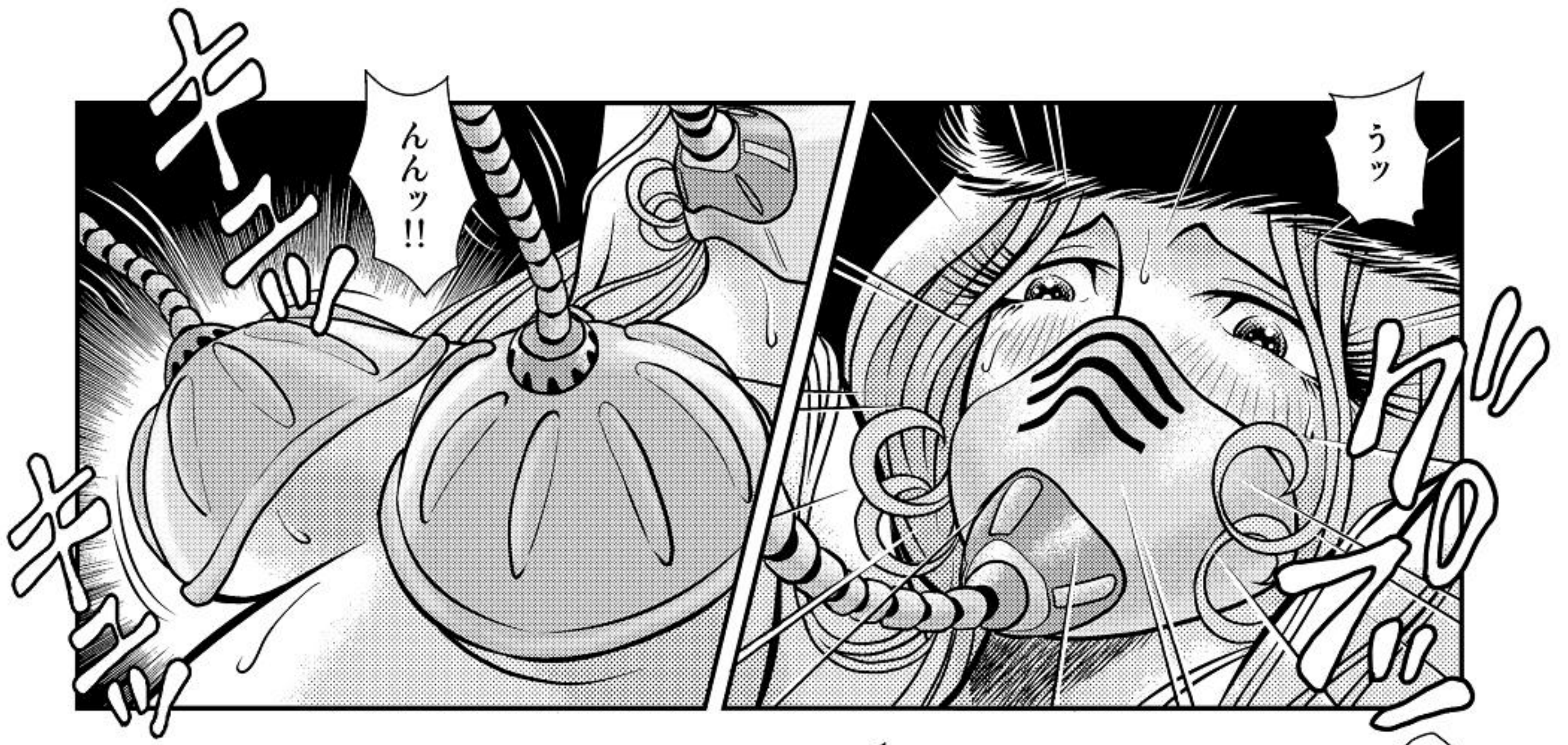
ンンッ

な…何…!?  
お腹の中が  
あ…熱い…

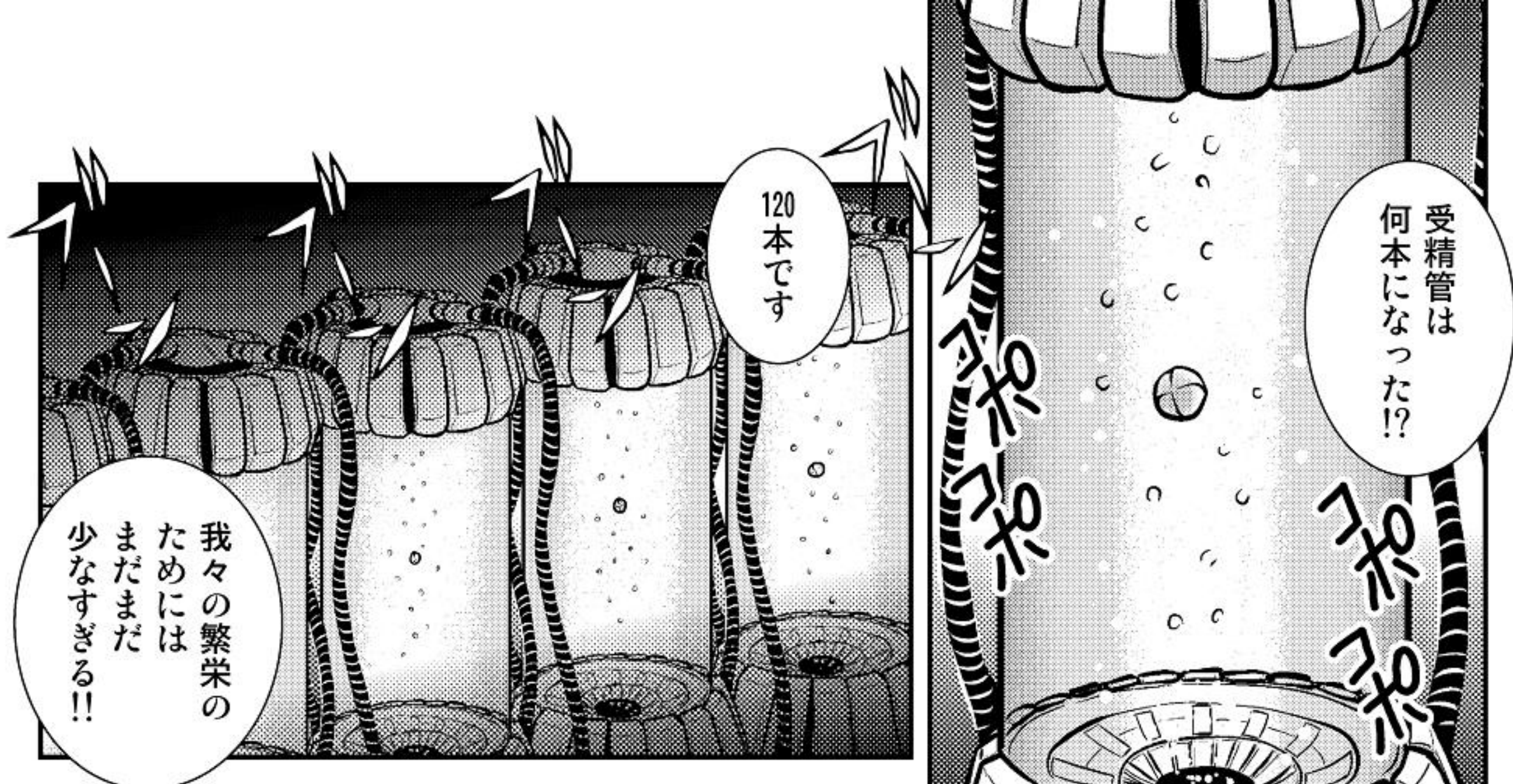
だ…だめ…  
こ…この感じ…  
し…子宮が…  
降りて…くる…!?

ゴホゴホ









受精管は  
何本になった!?

120  
本です

我々の繁栄の  
ためには  
まだまだ  
少なすぎる!!

もっと  
卵子を  
造らせるんだ

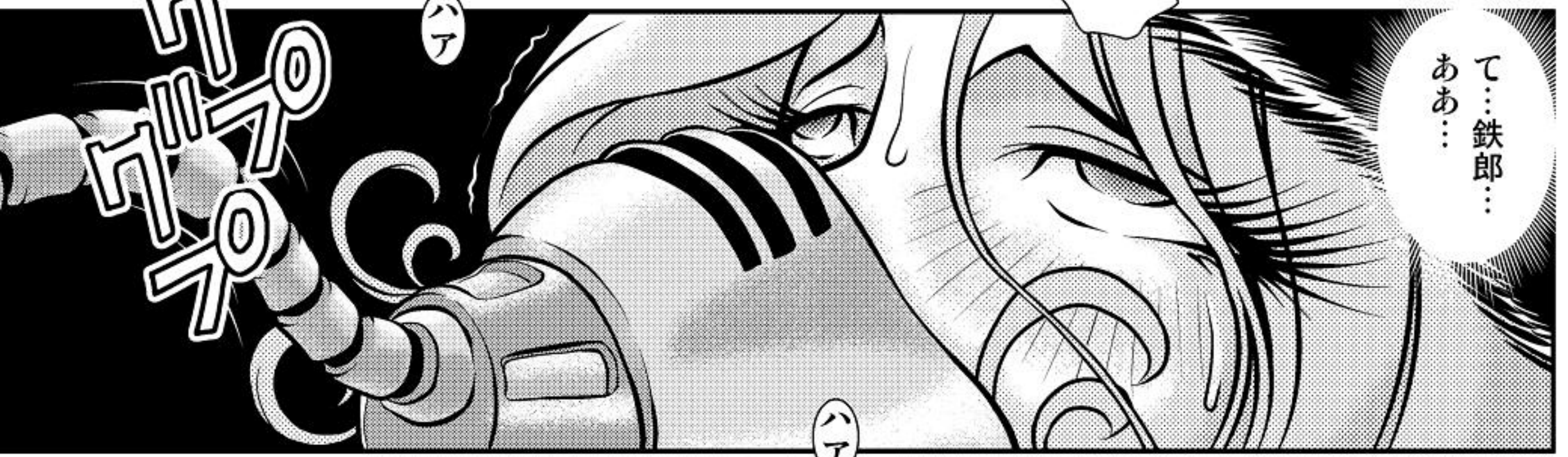
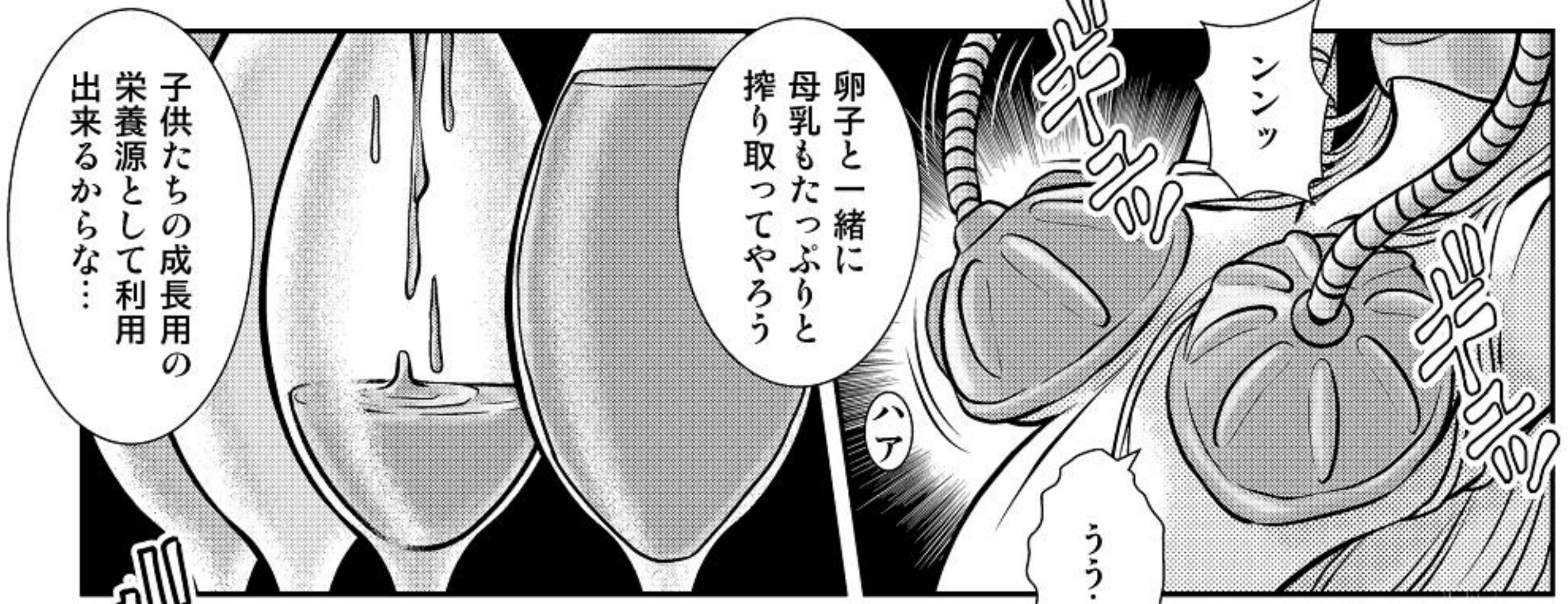
強制排卵剤を  
催淫薬と一緒に  
投与してやれ:



ウウツ:

んんん...









なにしろ  
我々は  
宇宙人類中…  
そのほうでは  
一番体質的に  
すぐれている  
からな…

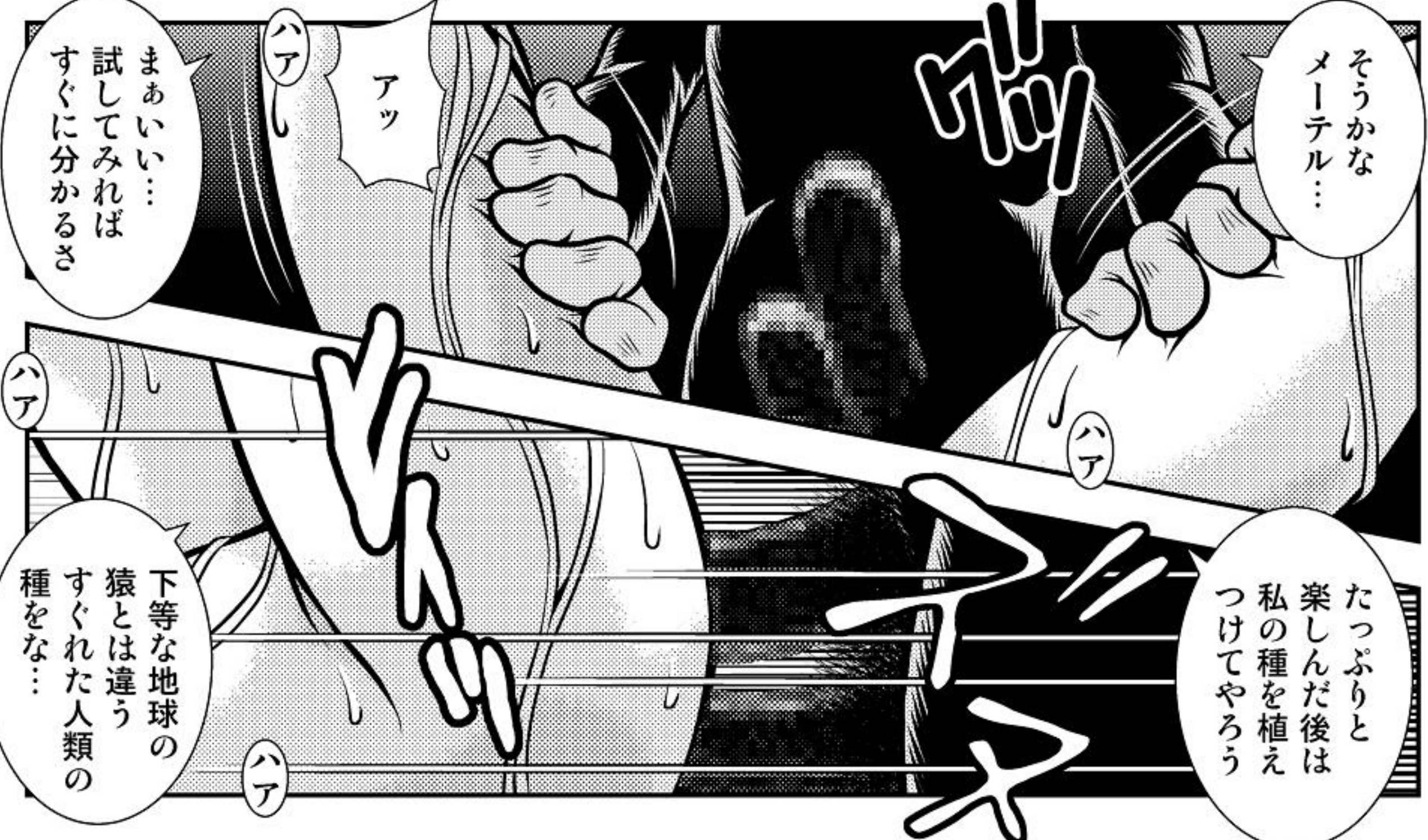
ああ…

ハア

ハア

あなた達は  
人類なんかじゃ  
ないわへド…

ハア



そうかな  
メーテル…

まあいい…  
試してみれば  
すぐに分かるさ

ハア

アッ

ハア

下等な地球の  
猿とは違う  
すぐれた人類の  
種をな…

ハア

たっぷりと  
楽しんだ後は  
私の種を植え  
つけてやろう

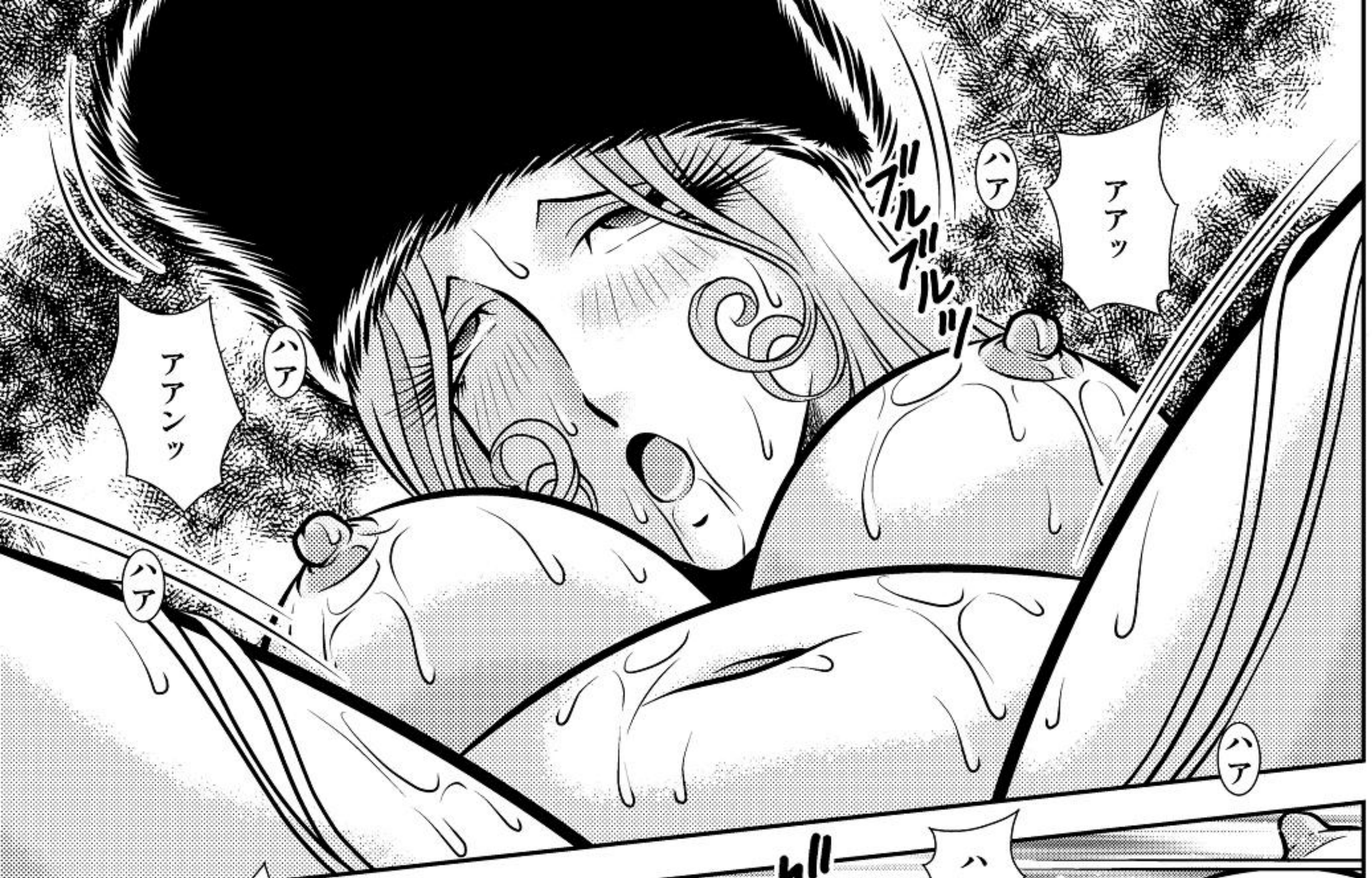












アアンツ

ハア

ブルブル

ハア

アアツ

ハア



ヒツ

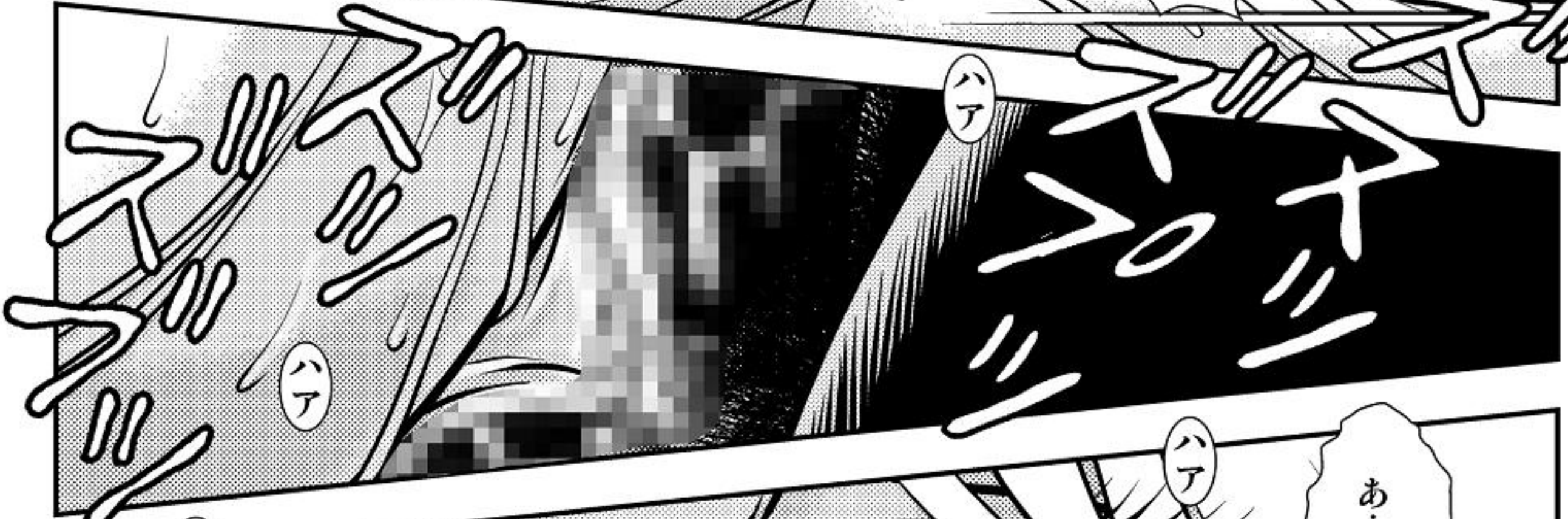
ハア

ハッ  
カクカク

ハッ

ハア

ヒツ



ハア

ハア

ハア

ハア

あ...

あああ...

ハア









だ…誰が…  
あなた達の…  
子供なんかを…

い…  
いやッ…

アウツ

ヒッ

アッ

アッ

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

そしてメーテル  
お前は…  
我々へド族の  
子孫を残すために  
働くのだ…

すぐれた能力を  
受け継ぐへド族の  
繁栄のためにな…





























ううう…

ハア

ああ…  
お腹の中が  
熱い…

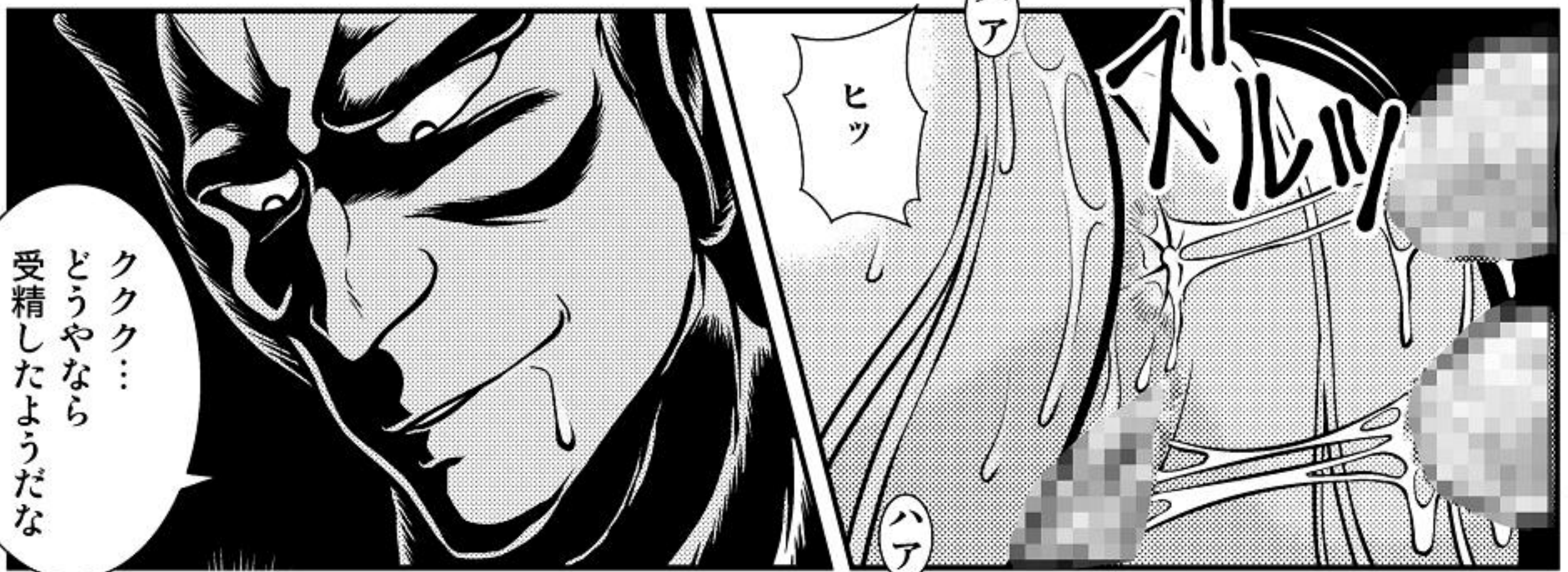
私の精を搾り  
だそうと一段と  
締めつけてる  
じゃないか…

いきがっても  
所詮は飢えた牝犬だ  
メーテル…

ブルブルブル

ハア

ハア



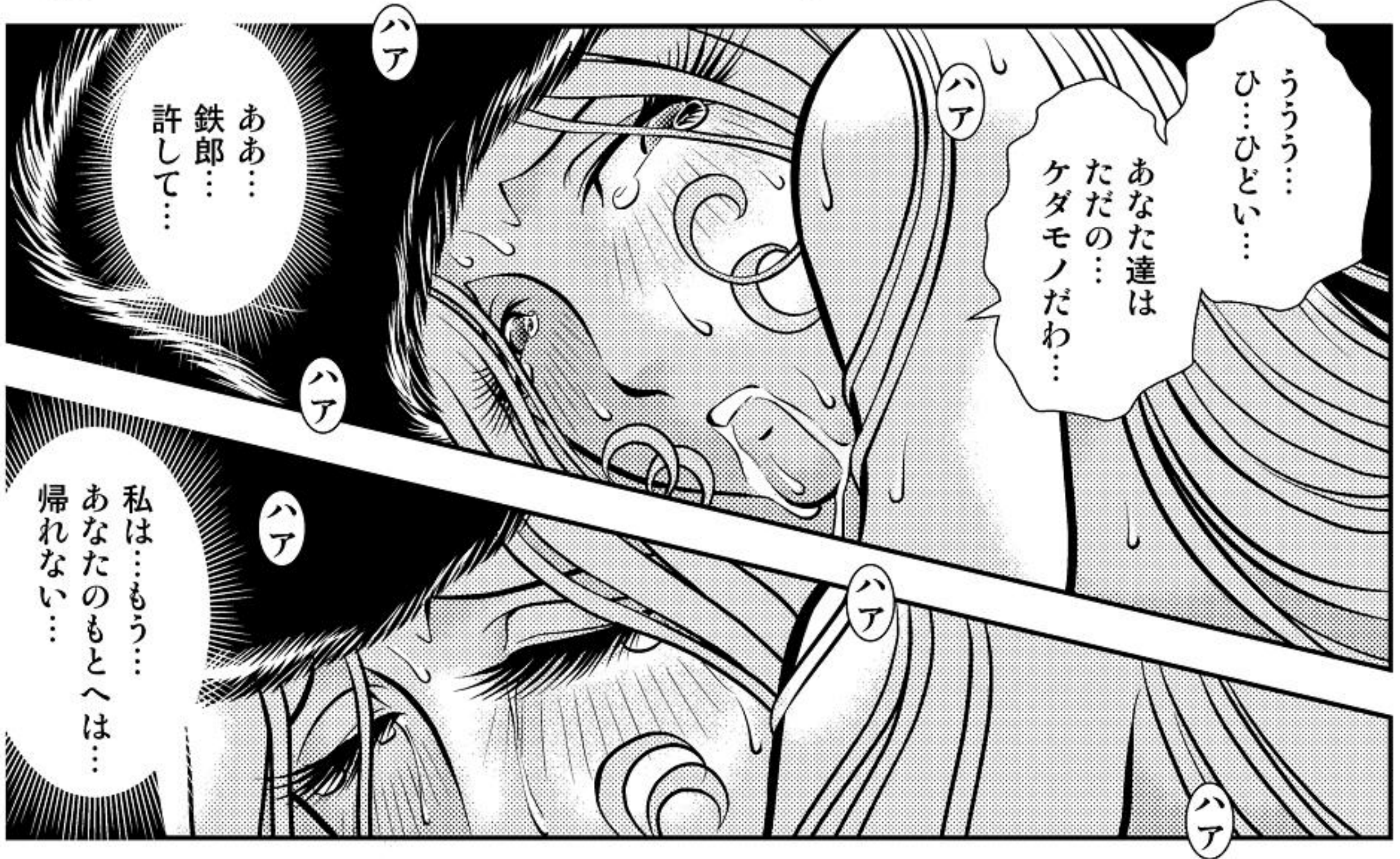
ククク…  
どうやらなら  
受精したようだな

ハア

ヒッ

ハア

ブルブル



ああ…  
鉄郎…  
許して…

あなた達は  
ただの…  
ケダモノだわ…

ううう…  
ひ…ひどい…

私は…もう…  
あなたのもとへは…  
帰れない…

ハア

ハア

ハア

ハア

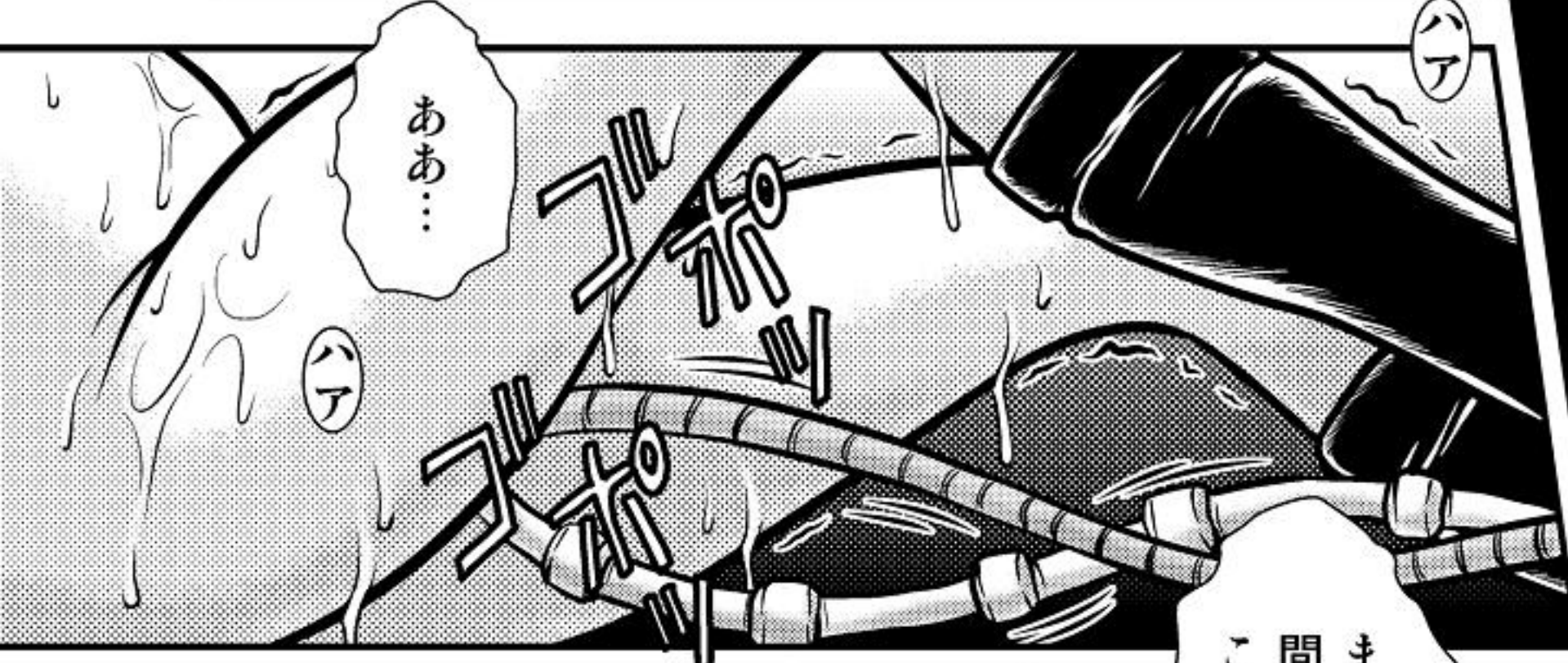
ハア





ククク：  
だいぶ大きくな  
ったようだな  
メートル：

あ…  
ああ…



ああ…

ハア

ハア

ハア

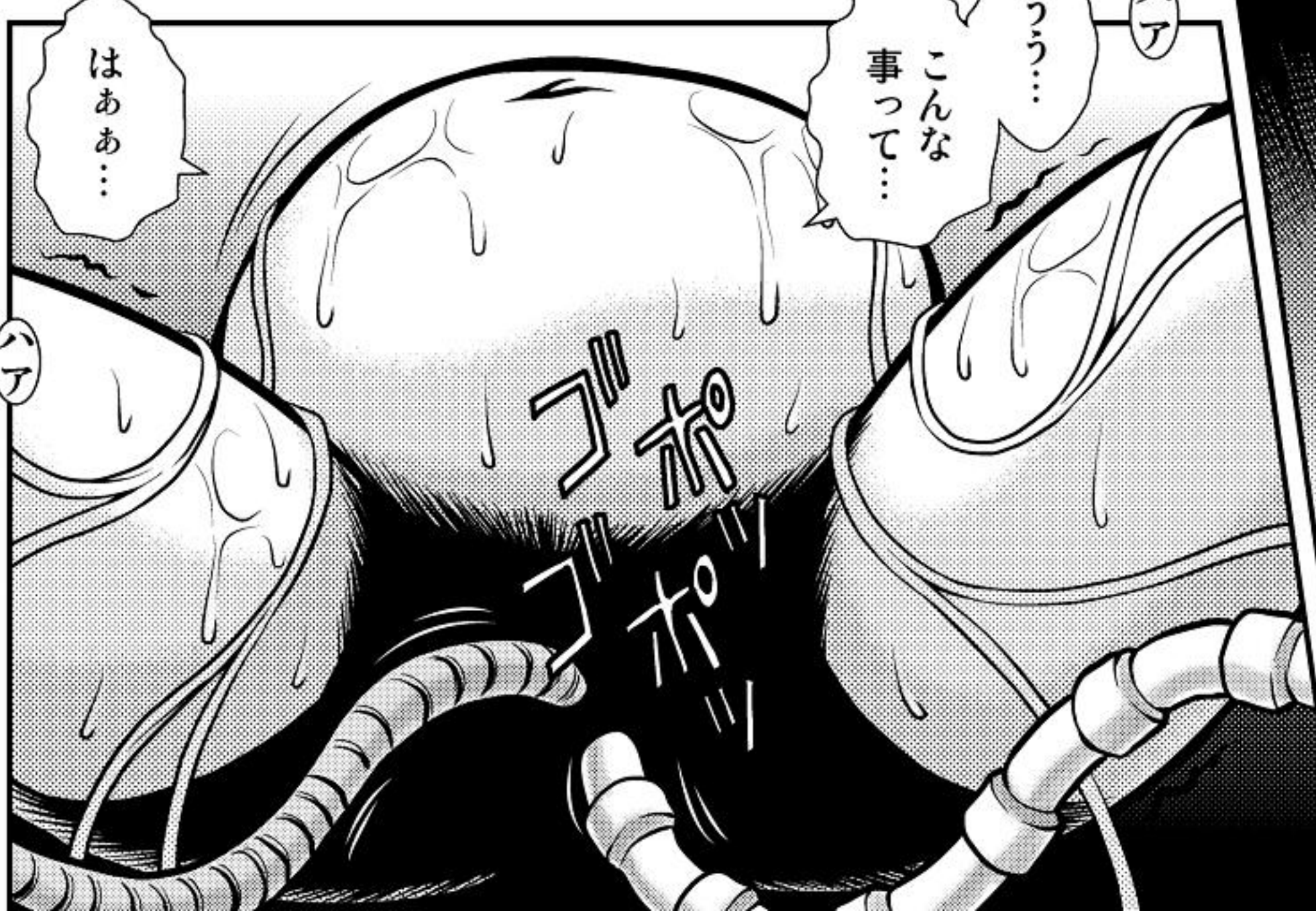
う…  
う…  
う…



あああ…

まだ受精して  
間もないのに…  
こんなに…

ハア



はああ…

う…  
う…  
う…  
こんな  
事って…

ハア

ハア



これなら  
産まれるのも  
じきだな…

ああ…

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

う…う…う…

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

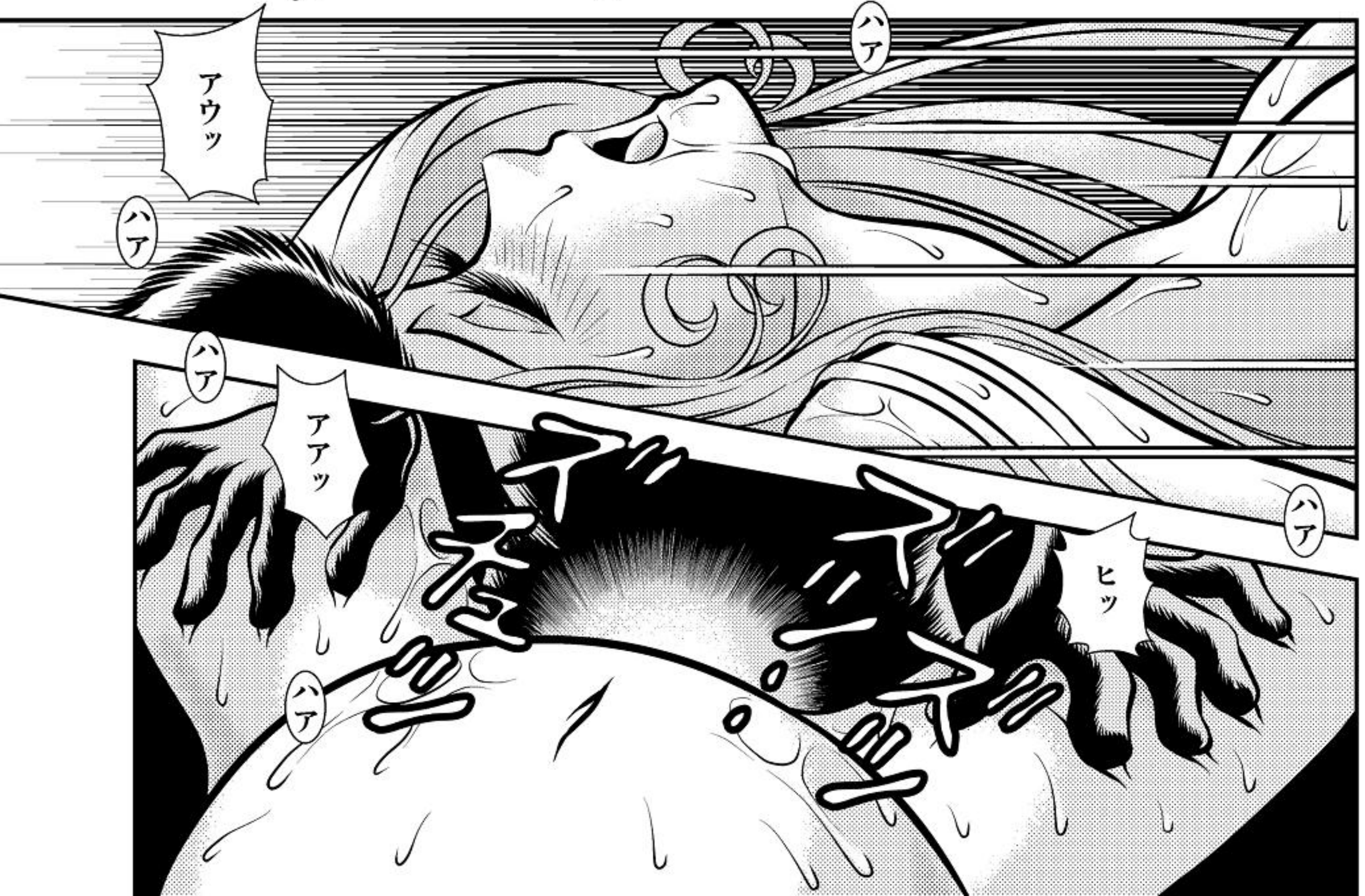
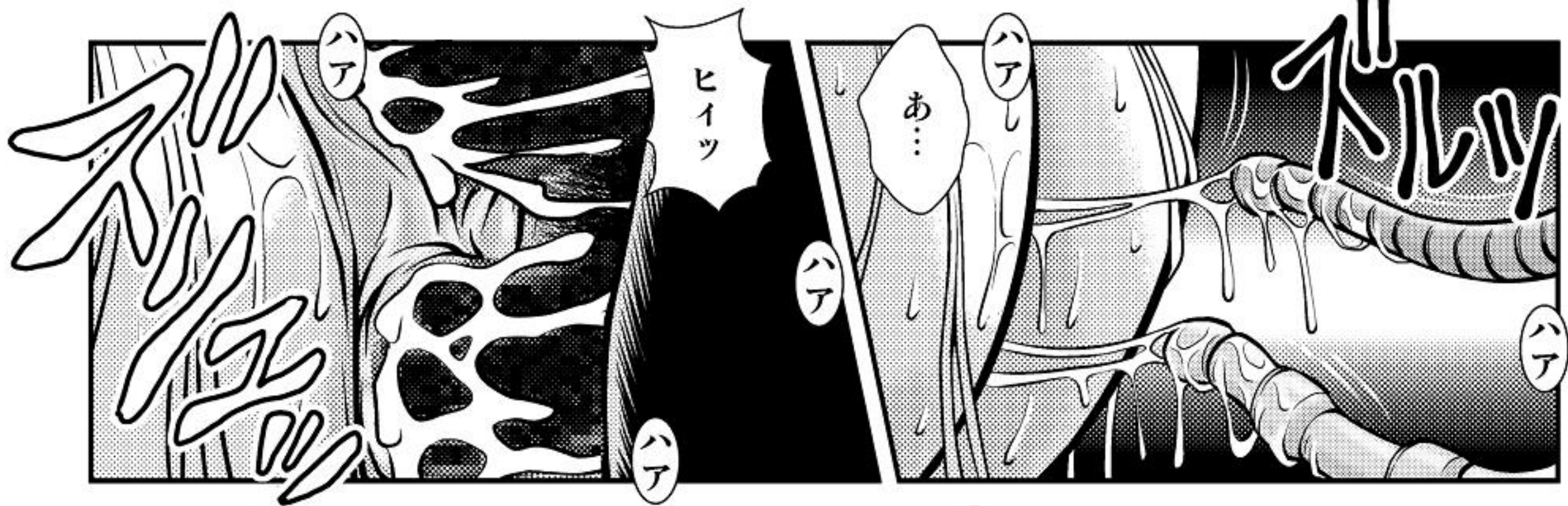
ハア

ハア

ククク…  
どうだねメートル  
私の子供を身籠もった  
気分は!?!

妊婦姿も  
一段と美しいぞ…  
メートル…







ああ…ああ…  
お…お願い…

もっと…  
やさしく…  
して…

ずいぶんと  
しおらしく  
なったじゃないか  
メーテル…

アッ

ハア

ハア

ああん…

ハア

アーンツ

ククク…  
母乳もだいぶ  
溜まってきた  
ようだな…

ヒッ

そ…そんなに  
強く…  
搾らないでッ

グッ  
グッ  
グッ

母乳

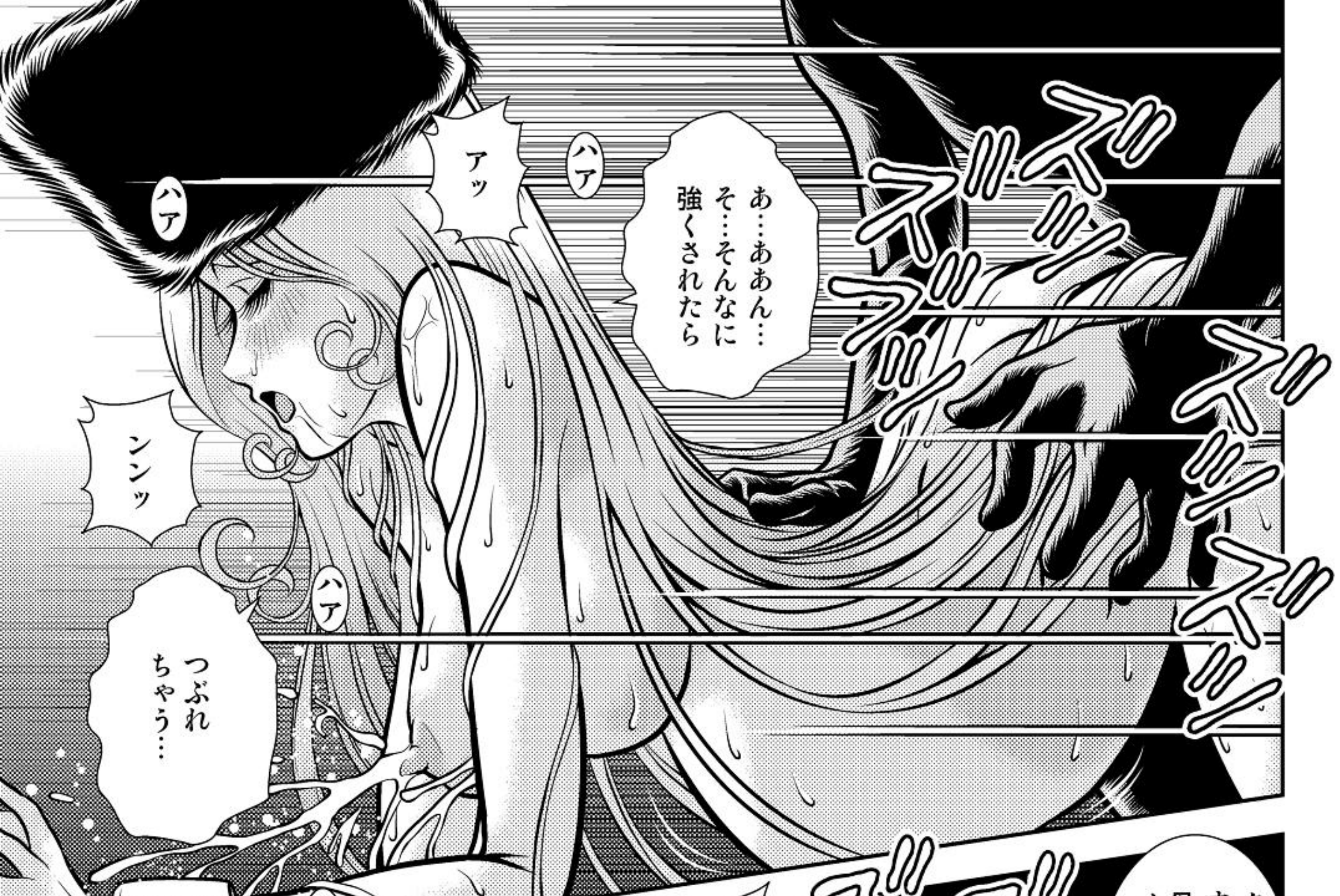
ああ…  
赤ちゃんの…  
母乳が…

ハア

ハア

ハア





あ…ああん…  
そ…そんな  
強くされたら

ハア

アッ

ハア

ンンッ

ハア

つぶれ  
ちやう…



ククク…  
すっかり  
母親きどりだな  
メーテル…

ヒッ

ハア

ハア

誰が…  
妊娠させた  
思ってるのッ

ハア

アンッ

ハア

お腹の中に  
いるのは…  
あなたの  
赤ちゃんなのよ

ああ…  
い…い…ッ





あ…ああ…

ウフ…

私の…  
赤ちゃん…

もう…  
こんなに  
大きく…



特殊な培養液で  
成長を促進して  
いるのだ…

ククク…

数時間で  
産まれるまで  
成長する…

これからは  
何人でも  
孕ませて  
やろう…



ハア

あ……ああ……  
あはあ……

私の……  
赤ちゃん……  
ウフフ……

ハア

ハア

ハア

急激な成長による  
ホルモンバランスの  
崩壊で母性本能を  
狂わされたか……

ハア

すっかり……  
子供を産む事に  
ためらいが  
無くなったな……

ハア

お腹の中で……  
動いてる……

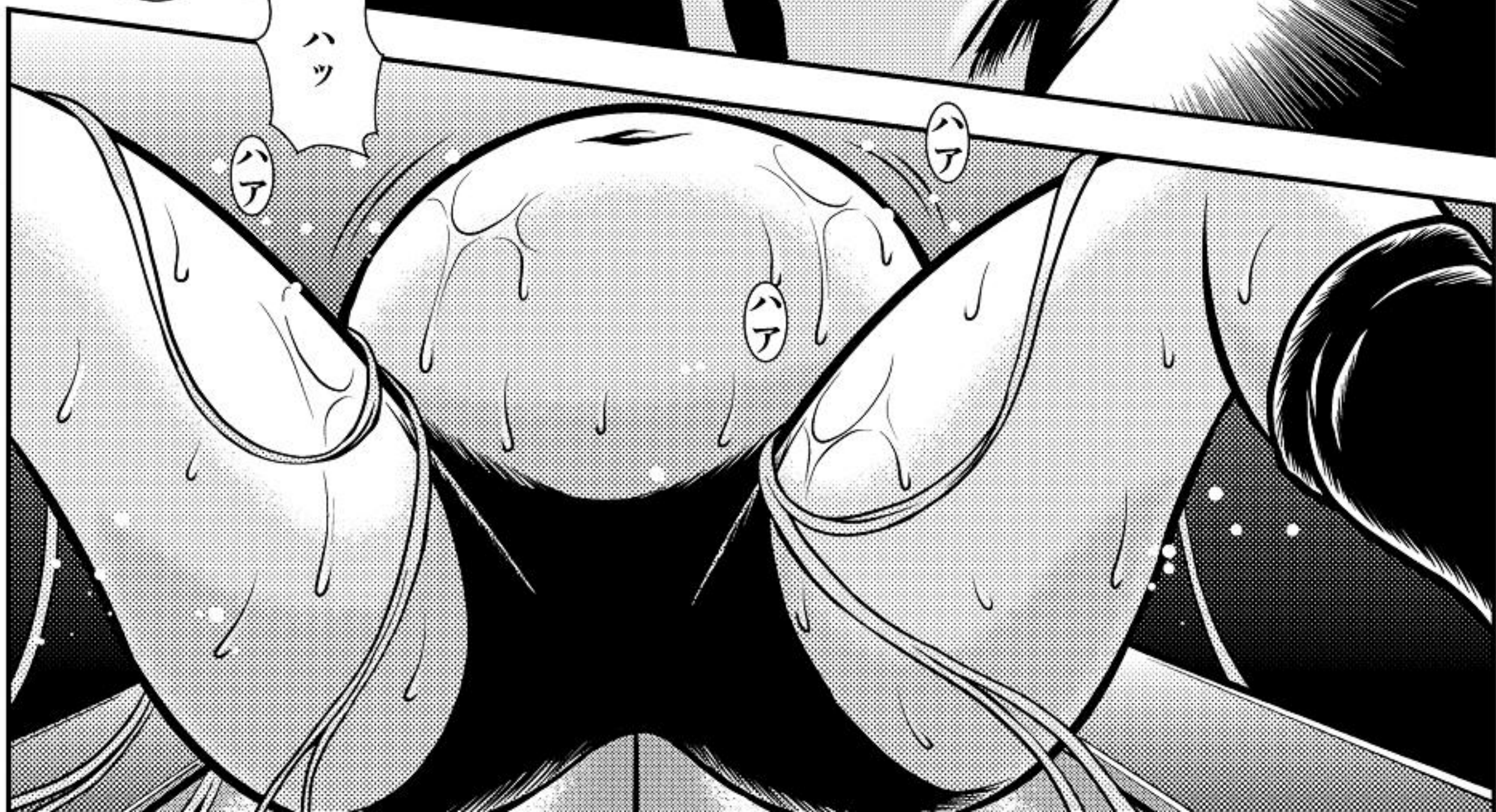
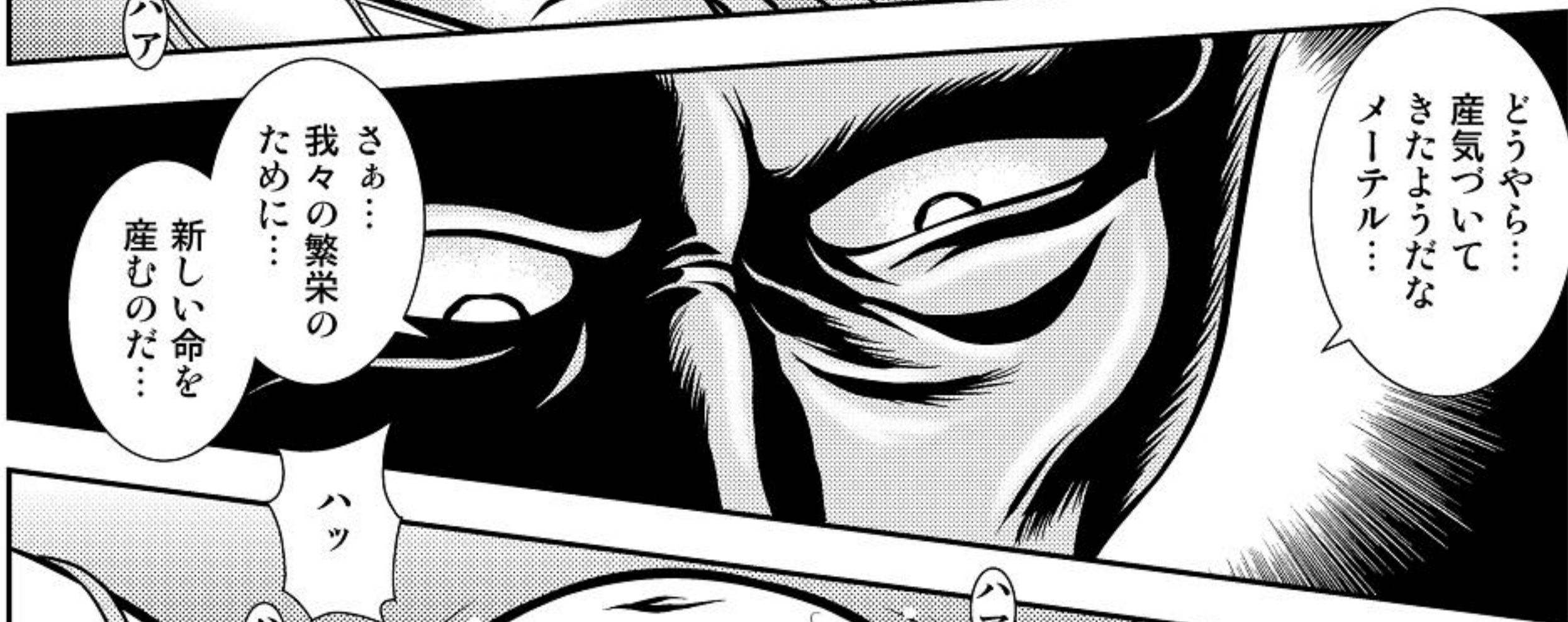
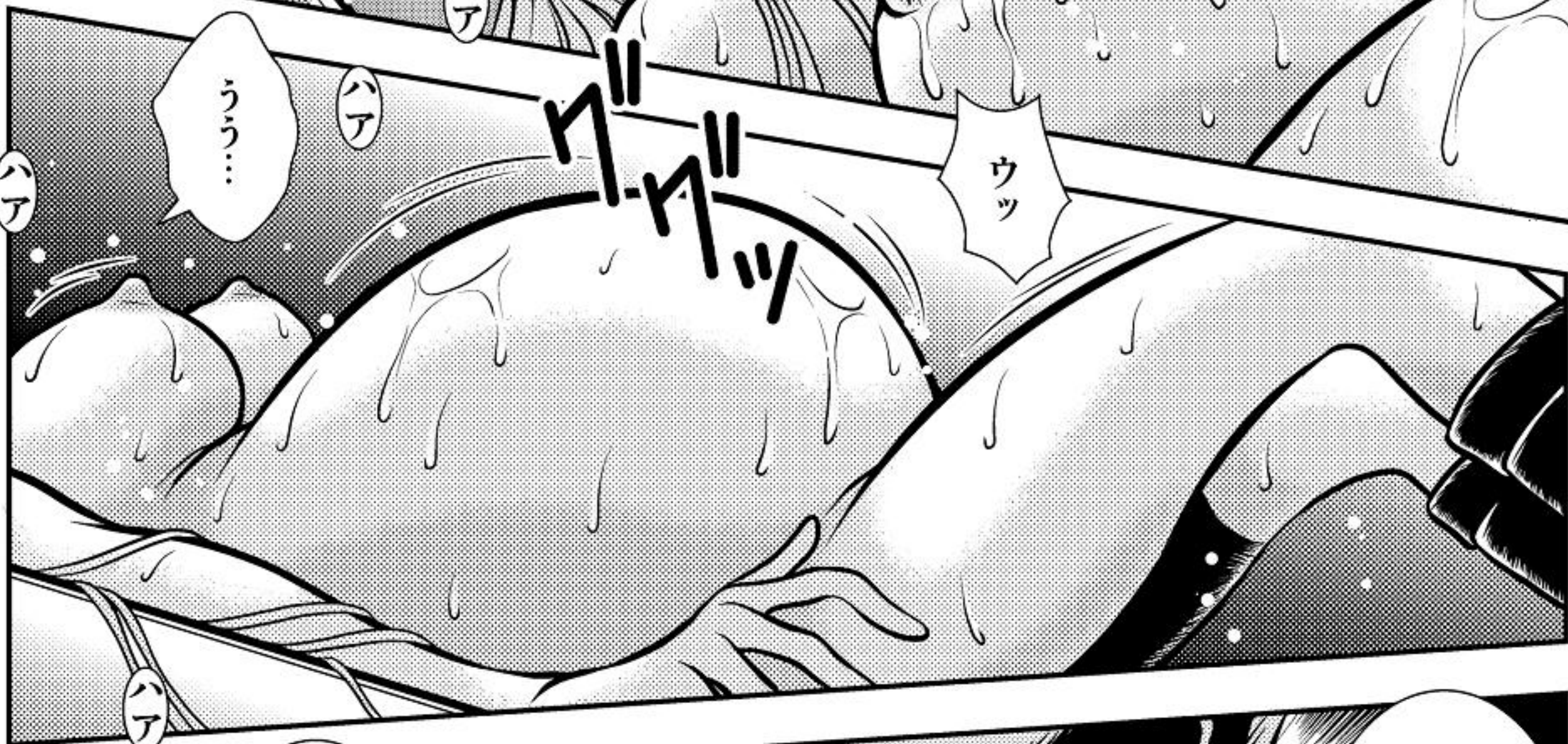
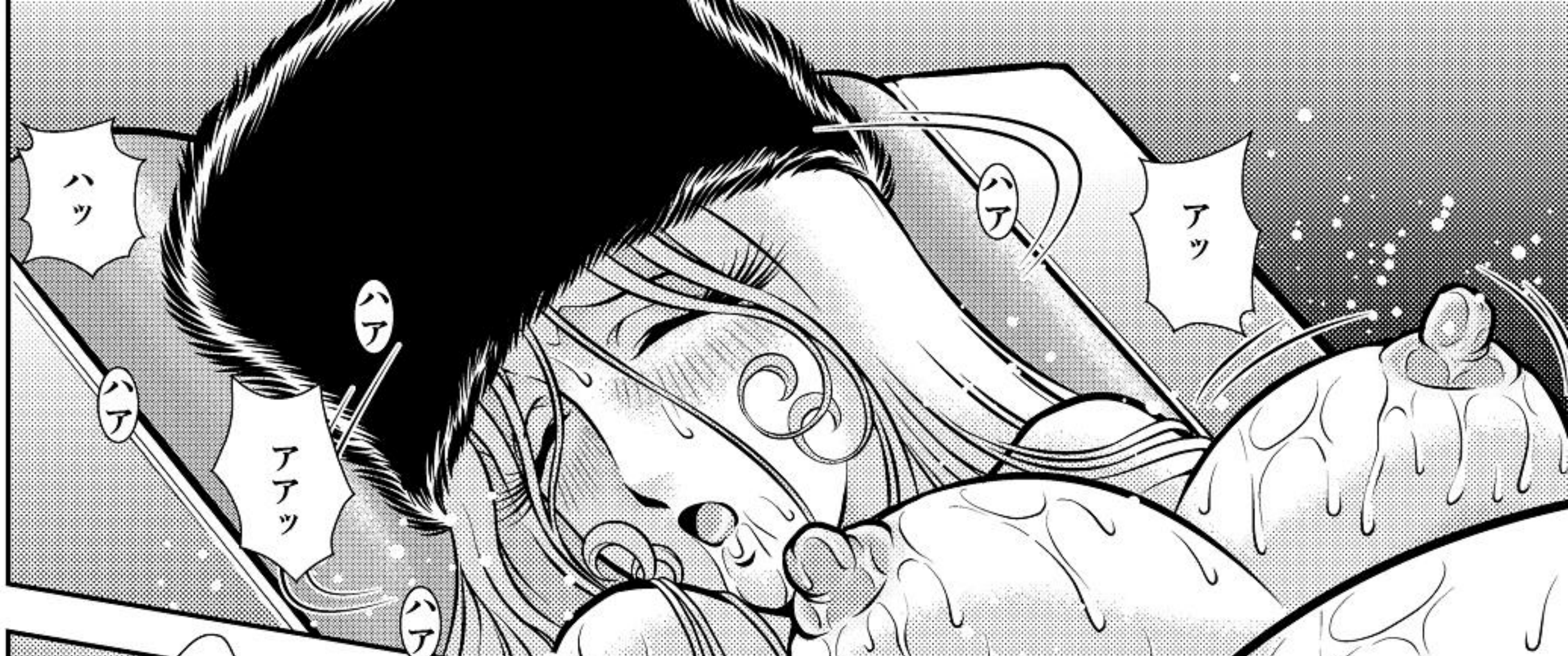
産まれた  
が……  
出……

早く……  
出てきて……

所詮……  
メーテルといえど  
こうなれば  
ただの牝だな……

これからは  
我々の子孫繁栄の  
ためにたっぷりと  
働いてもらうか……  
ククク……











さて：メーテル  
これからは  
私の子供を死ぬまで  
産み続けるんだ：

あ：  
ああ：

は：  
はい：

喜んで：  
あなた：

もつと：  
もつと：もつと  
種付けしてえ：

孕ませて：  
くださあい：

ESNO

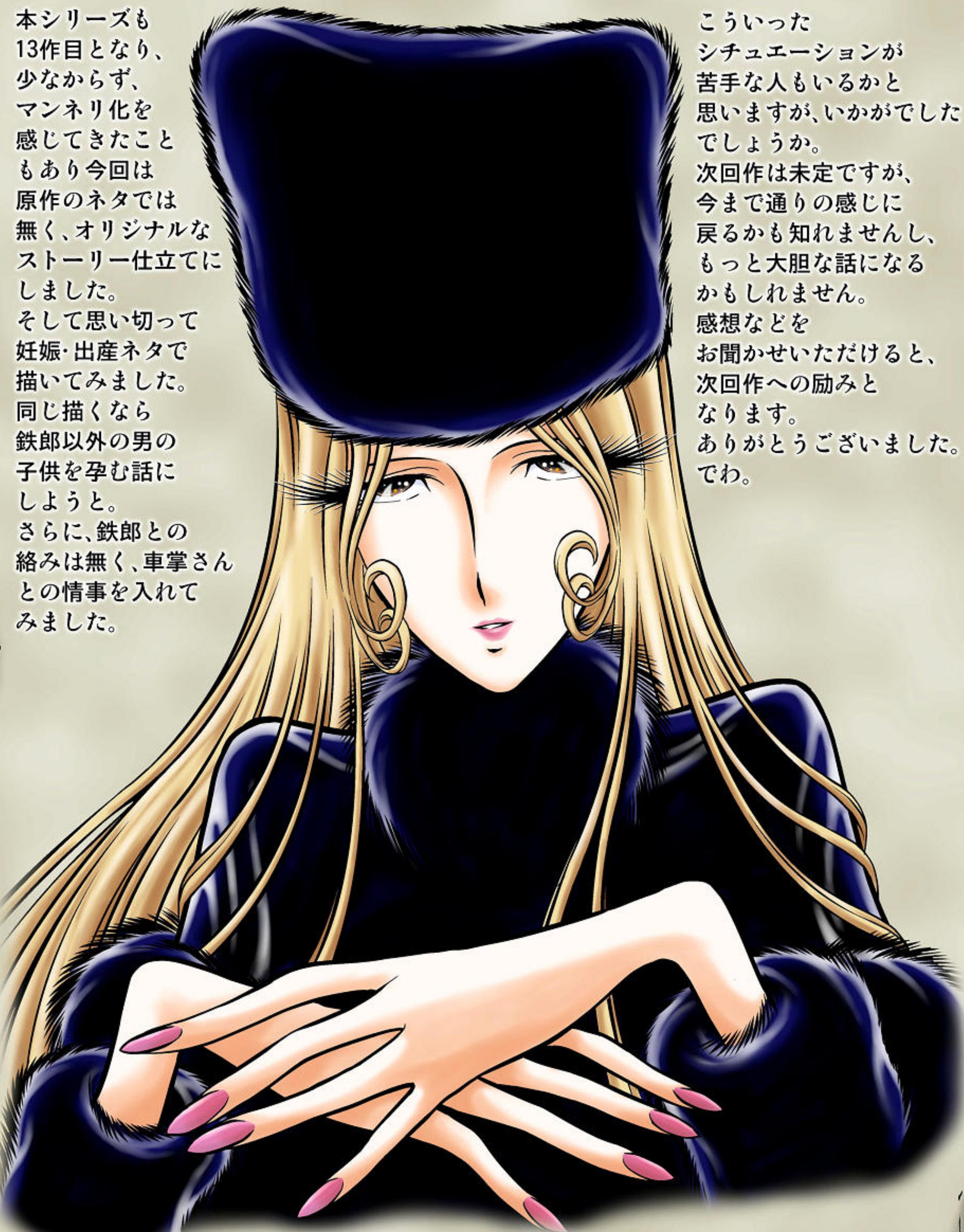


## あとがき・・・

このたびはMaetelStory13をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本シリーズも13作目となり、少なからず、マンネリ化を感じてきたこともあり今回は原作のネタでは無く、オリジナルなストーリー仕立てにしました。そして思い切って妊娠・出産ネタで描いてみました。同じ描くなら鉄郎以外の男の子供を孕む話にしよう。さらに、鉄郎との絡みは無く、車掌さんとの情事を入れてみました。

こういったシチュエーションが苦手な人もいるかと思いますが、いかがでしたでしょうか。次回作は未定ですが、今まで通りの感じに戻るかも知れませんし、もっと大胆な話になるかもしれません。感想などをお聞かせいただけると、次回作への励みとなります。ありがとうございました。でわ。







*Kaguya*